

木津川市にぎわい拠点施設基本構想

令和5年9月

目次

1. はじめに	1
2. 計画対象区域の概要	2
3. 木津川市の現状	4
3.1. 人口	4
3.2. 交通	6
3.3. 産業	10
3.4. 観光	13
3.5. 防災	15
4. アンケート・ヒアリング調査の概要	17
4.1. Web アンケート調査	17
4.2. ヒアリング調査	29
4.3. 配布型アンケート調査	31
4.4. 民間事業者への意向調査	35
5. 木津川市の現状・課題・整備の方向性	38
6. にぎわい拠点施設の整備コンセプト（案）	39
7. 導入機能（案）	40
7.1. 休憩機能（道の駅登録要件）	40
7.2. 情報発信機能（道の駅登録要件）	43
7.3. 地域連携機能（道の駅登録要件）	44
7.4. 交通結節機能	50
7.5. 子ども応援機能（道の駅第3ステージ取組目標）	52
7.6. 防災拠点機能（道の駅第3ステージ取組目標）	55
7.7. にぎわい向上機能	58
7.8. その他機能	60
8. 施設イメージ（ゾーニング図・イメージパース）	61

1. はじめに

木津川市が位置する京都府山城地域は、京都と奈良という古都に挟まれ、古くから木津川の水運を利用した交通の結節点として国内外との人・もの・文化が盛んに行き来する『交流の地』として栄えてきた 1000 年以上に及ぶ歴史があります。

京都府南部の山城地域は、「抹茶」「煎茶」「玉露」を生み出し、「茶の湯」をはじめとする日本の喫茶文化を支え、リードしてきた「日本茶のふるさと」であり、平成 27 年には『日本茶 800 年の歴史散歩』～京都・山城～の文化的景観が日本遺産に認定されるなど、木津川市においても茶文化による観光、歴史、文化の振興を通じた地域間交流などを行い、にぎわいの創出に取り組んでいます。

令和 3 年 3 月に定めた「第 2 次木津川市都市計画マスタープラン」においては、国道 24 号城陽井手木津川バイパス整備の機会を活用し、令和 2 年 3 月に開通した国道 163 号との結節点にて、市内外の人が利用できる多様な施設をもつ「にぎわい拠点施設」の整備に向けた検討を行うことが位置付けられています。

このような背景から、歴史と自然環境豊かな本市の特色を生かした、地域産業や広域観光の振興拠点として、さらなる交流人口の増加や地域の活性化に寄与することを目的に、現時点では、「にぎわい拠点施設」を『道の駅』の機能を含んだ施設として想定し、「木津川市にぎわい拠点施設基本構想」を策定しました。

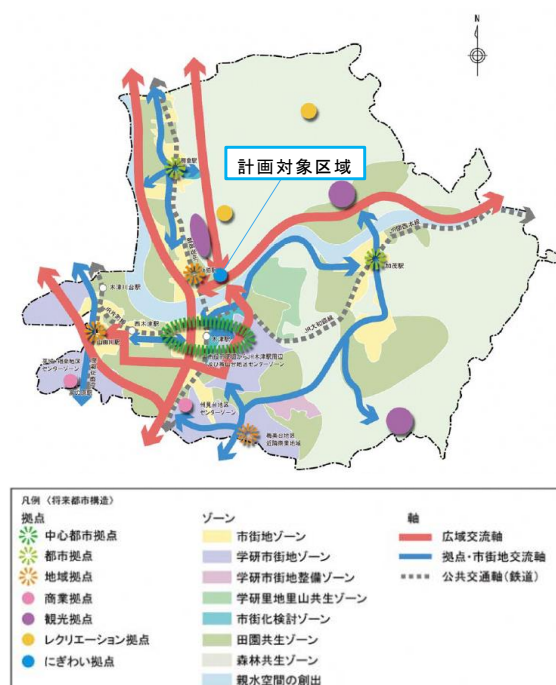


図 1-1 将来都市構造

（出典：第 2 次木津川市都市計画マスタープラン）

2. 計画対象区域の概要

計画対象区域は「木津川市山城町上粕」で、京都市内（JR 京都駅）から約 27km、奈良市内（JR 奈良駅）から約 8km に位置し、現在事業実施中の国道 24 号城陽井手木津川バイパスと国道 163 号の結節点にあります。

計画対象区域北側では、名古屋から神戸を結ぶ新名神高速道路が全線開通予定となっております。



図 2-1 計画対象区域の概要（広域図）

最寄り駅は JR 奈良線上粕駅で、上粕駅から徒歩 15 分ほどです。

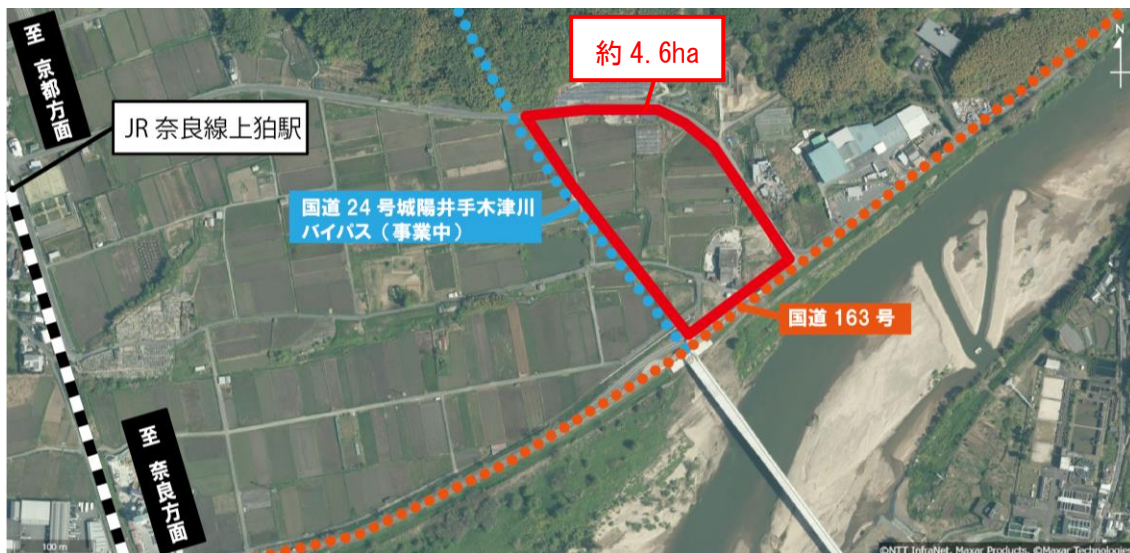


図 2-2 計画対象区域の概要（航空写真）

2. 計画対象区域の概要

計画対象区域の大部分は「埋蔵文化財包蔵地」である上狛東遺跡の分布図と重なる地域となっております。

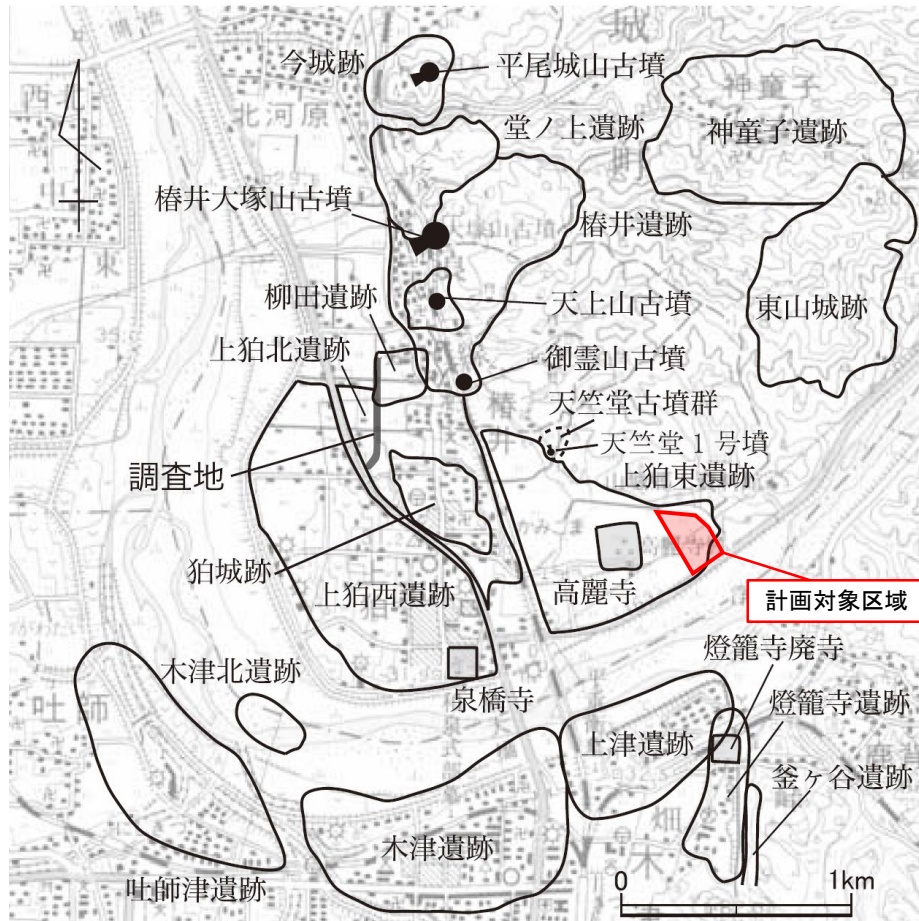


図 2-3 計画対象区域周辺の史跡分布図

(出典：上狛北遺跡第1次・柳田遺跡発掘調査報告)

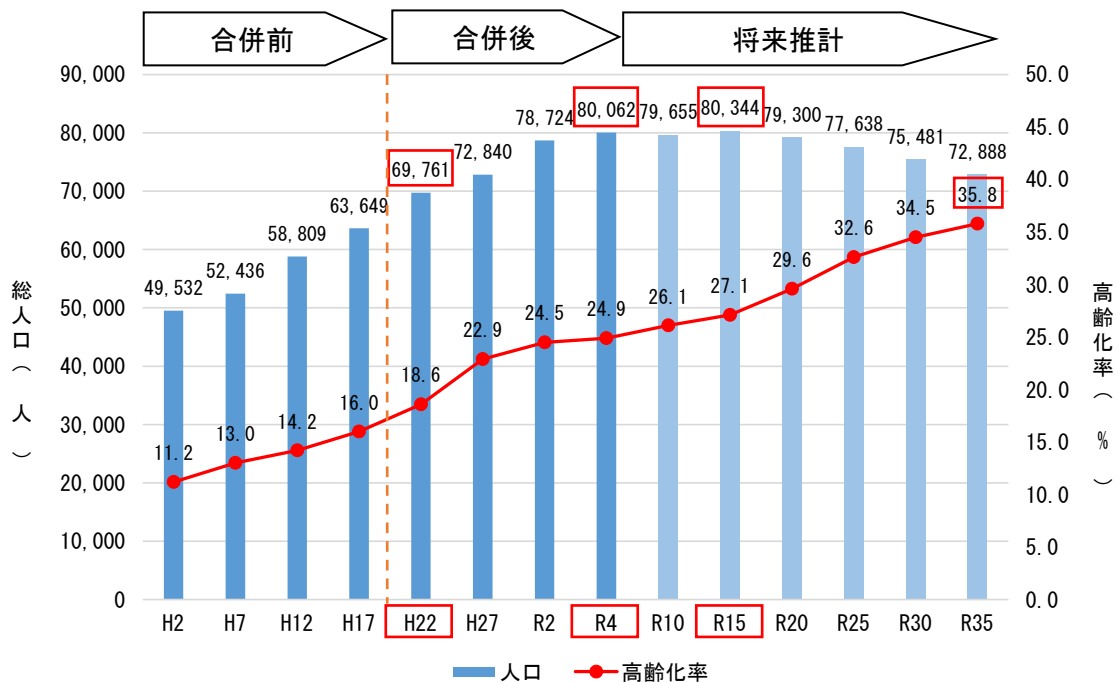
3. 木津川市の現状

3.1. 人口

関西文化学術研究都市の中核地としてのまちづくりが進み、多くの研究施設や大型商業施設が立地するとともに、大規模な住宅地も多く整備されるなど、良質で魅力的な住環境が形成されてきました。

平成 19 年に木津町、加茂町、山城町が合併し、木津川市となり、合併後の平成 22 年の人口は 69,761 人でしたが、その後、学研地区の宅地開発などを背景とする人口流入により増加を続け、令和 4 年 9 月現在の人口は 80,062 人となっております。

「木津川市推計（R5～R35：H30.8 推計）」によると、木津川市の人口は今後も増加を続け、令和 15 年の 80,344 人をピークとして減少に転じると見込まれております。一方、高齢化率は上昇を続け、令和 35 年には 35.8%になると予想されております。



※平成 2 年から平成 17 年までは合併前の旧木津町・加茂町・山城町の 3 つの町の合計

図 3-1 木津川市の人口及び高齢化率の推移

(出典：「木津川市人口集計表令和 2 年 9 月」、「木津川市人口集計表令和 4 年 9 月」、「国勢調査 (H2～H27)」、「木津川市推計 (R5～R35：H30.8 推計)」より作成)

3.木津川市の現状

令和4年1月1日時点での年少人口率は、京都府や全国平均より高く、高齢化率は京都府や全国平均よりも低くなっています。

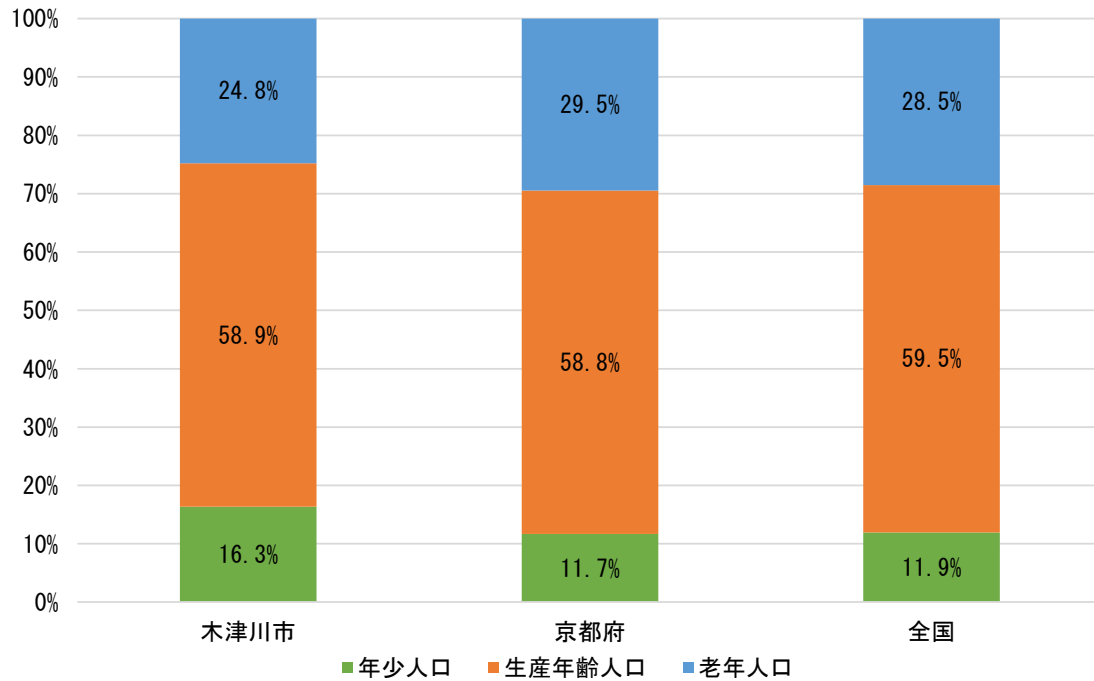


図 3-2 年齢（3区分）別人口構成比

（出典：総務省「令和4年1月1日住民基本台帳年齢階級別人口（市町村別）」より作成）

3.2. 交通

3.2.1. 自動車

木津川市の中央部を国道 24 号が南北方向に、国道 163 号が東西方向に通り、市の西部には京奈和自動車道が整備されるなど、京都、大阪、奈良へのアクセスが良好です。

令和 2 年 3 月 15 日に一般国道 163 号木津東バイパスが開通したため、現状の交通量とは若干の乖離がありますが、「平成 27 年度交通センサス」より、主要幹線である国道 24 号は 23,894 台/日、国道 163 号は 13,695 台/日となっており、いずれも混雑度が 1.00 を上回っております。

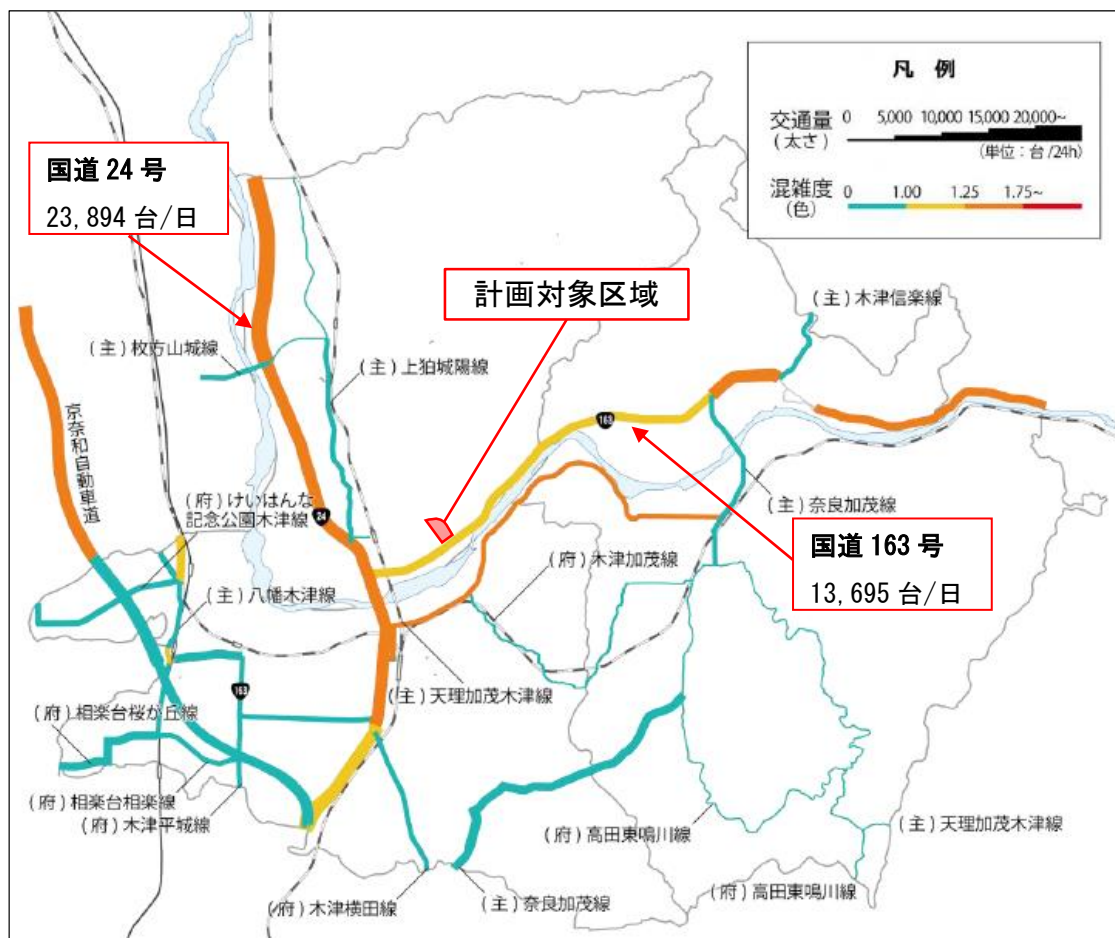


図 3-3 木津川市内の主要道路の交通量と混雑度 (H27)

(出典:「平成 27 年度全国道路・街路交通情勢調査 一般交通量調査結果」及び「木津川市公共交通に係る現況報告」)

【道路の混雑度について】

- 1.00 未満 : 昼間 12 時間を通して、道路が混雑することなく、円滑に走行できる。渋滞やそれに伴う極端な遅れはほとんどない。
- 1.00～1.25 : 昼間 12 時間のうち道路が混雑する可能性のある時間帯が 1～2 時間（ピーク時間）ある。何時間も混雑が連続するという可能性は非常に小さい。
- 1.25～1.75 : ピーク時間はもとより、ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速度的に増加する可能性の高い状態。ピーク時のみの混雑から日中の連続的混雑への過渡状態と考えられる。
- 1.75 以上 : 慢性的混雑状態を呈する。

（出典：木津川市公共交通に係る現況報告）

木津川市を南北に縦断する国道 24 号は渋滞が発生しており、交通混雑緩和と交通安全確保のため、計画対象区域に隣接する城陽井手木津川バイパスの新設工事が進められています。

「バイパス事業評価結果」によると城陽井手木津川バイパスの推計交通量（推計時点：令和 12 年）は 12,900 台/日となっております。



図 3-4 計画対象区域周辺の主要道路（工事中のものも含む）

（出典：国土交通省「事業評価に係るバックデータ⑮一般国道 24 号 城陽井手木津川バイパス」）

木津川市内には、路線バスが運行しており、路線バスを補完する形で、コミュニティバスや予約型乗合タクシーが運行しています。

現状、計画対象区域の前面道路を走行するバス路線は整備されていません。



図 3-5 バス運行ルート

(出典：第2次木津川市地域公共交通網形成計画)

3.2.3. 自転車

木津川市内には、京都市西京区嵐山から奈良県内を経て、和歌山県和歌山港までを結ぶ、全長約 180km の京奈和自転車道が通っています。中でも「木津川サイクリングロード そして奈良へ」、「日本遺産 上狛茶問屋街と山背古道・木津川右岸」、「日本遺産 上狛茶問屋街と山背古道 山道編」の 3 つのサイクリングルートが通っており、後半の 2 つのルートは木津駅を出発地点としています。



図 3-6 京奈和自転車道サイクリングマップ 木津川サイクリングロード

(出典：京都府「京奈和自転車道サイクリングマップ」)

3.3. 産業

木津川市の産業別売上高は、「卸売業、小売業」が最も高くなっています。

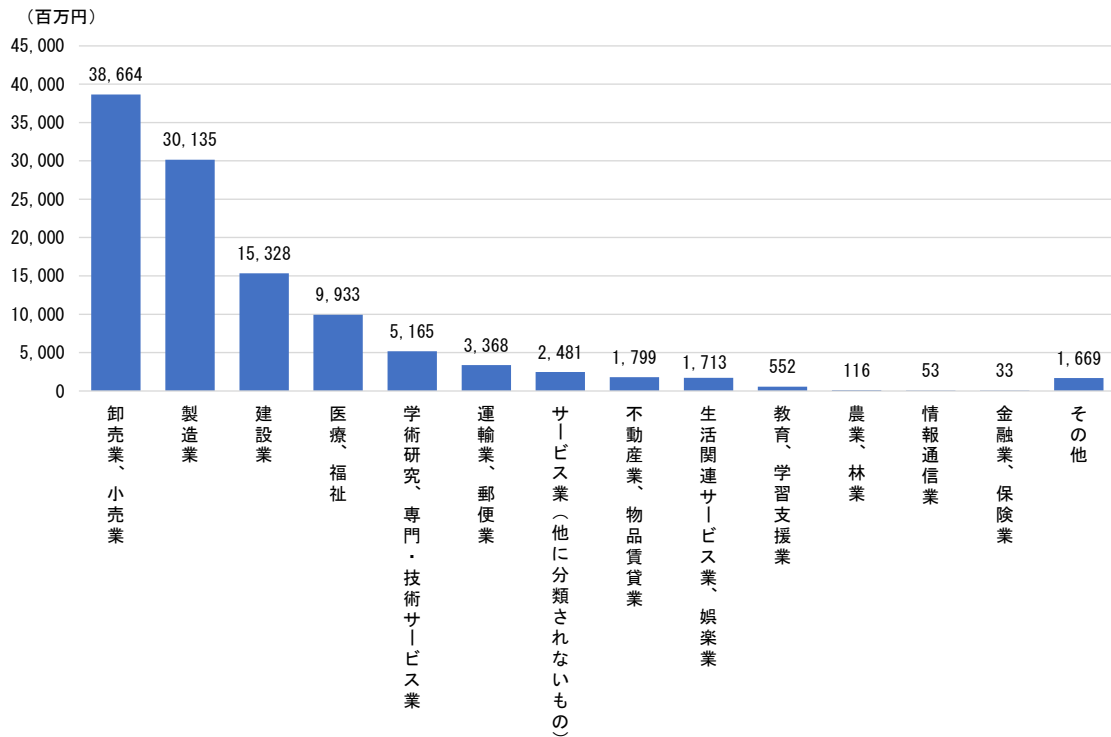


図 3-7 産業別売上高（企業単位）（平成 28 年）

（出典：「RESAS 地域経済分析サービス」より作成）

令和 3 年の品目別農業産出額をみると「野菜」が最も高く 12 億 2 千万円となっております。

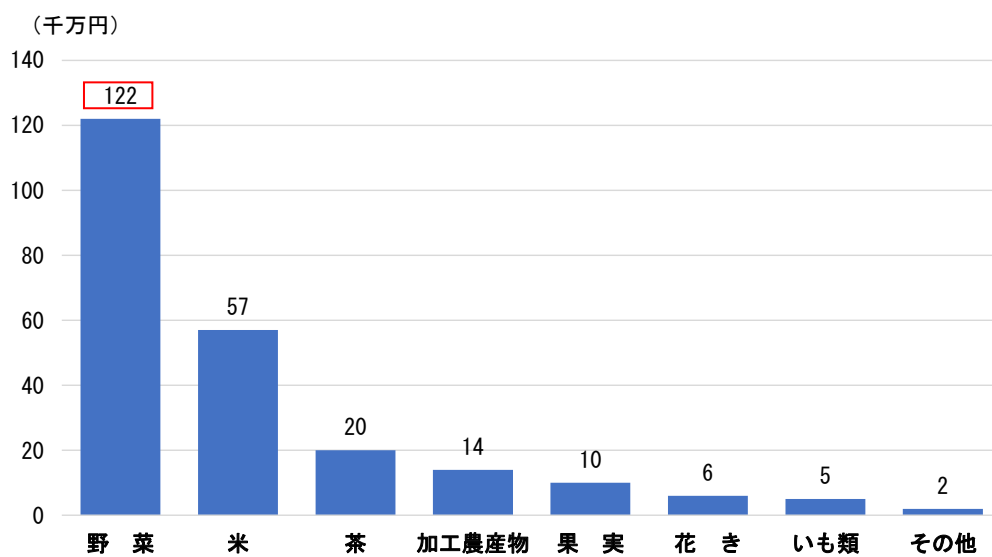


図 3-8 農業産出額

（出典：農林水産省「令和 3 年度市町村別農業産出額（推計）」より作成）

3.木津川市の現状

令和2年の農業経営者の平均年齢は、全国平均より高く、令和2年の65歳以上の割合は平成27年より高くなっており、高齢化が進んでおります。

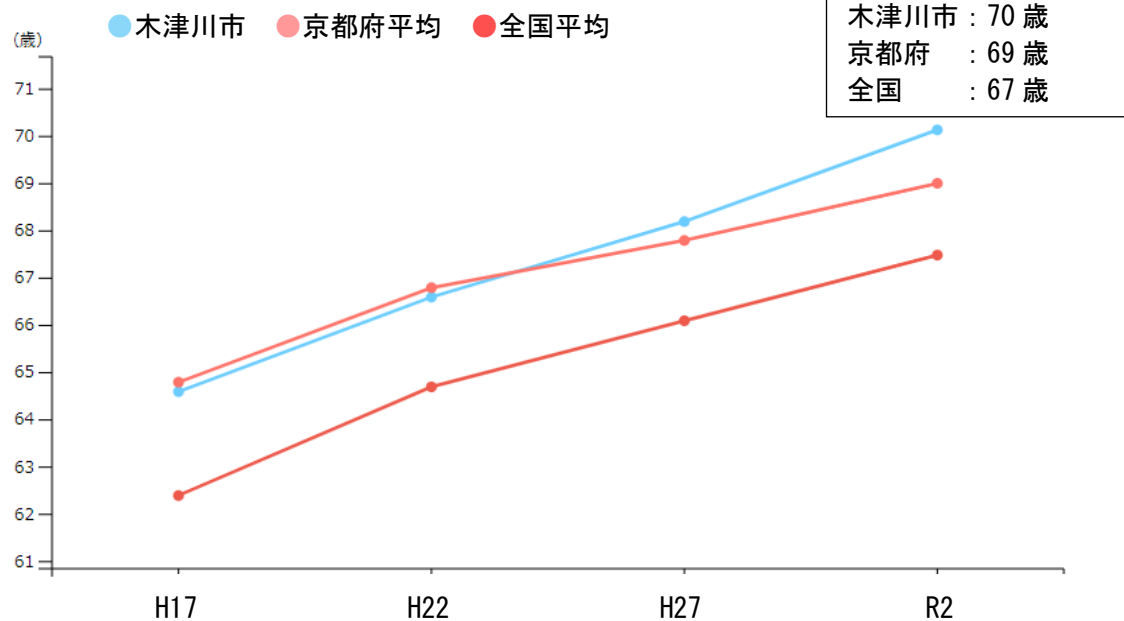


図 3-9 農業経営者の平均年齢

(出典：RESAS 地域経済分析サービス)

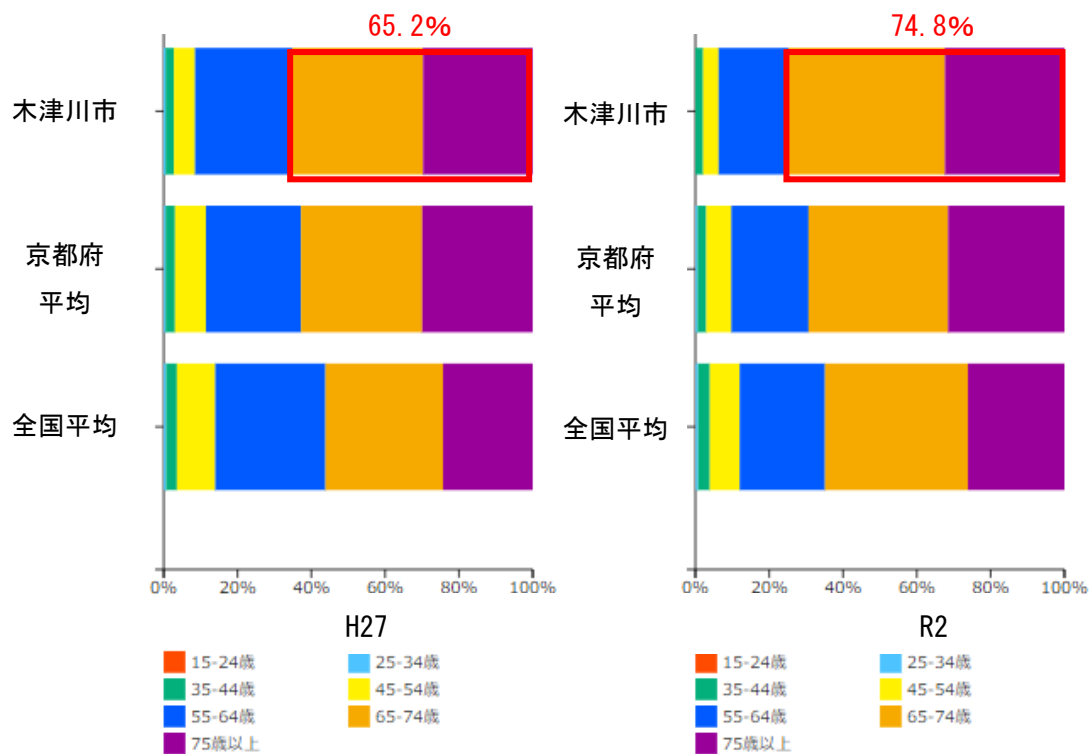


図 3-10 農業経営者の年齢構成

(出典：RESAS 地域経済分析サービス)

3.木津川市の現状

木津川市特産品としては「タケノコ」「茶」「柿」、地場産品には「相楽木綿」「京織ふすま紙」などがあります。木津川市は、里地里山、木津川などの豊かな自然に恵まれた環境の中で、多くの特産品などの地域産業を生み出してきました。

表 3-1 木津川市の特産品

タケノコ	茶	柿
		

(出典：木津川市市勢要覧 2018)

表 3-2 木津川市の地場産品

相楽木綿	
	明治時代から昭和前期にかけて、京都府相楽郡相楽村を中心として生産された手織りの綿織物です。色糸を用いた縞と緋を組み合わせた柄が特徴で、藍染めの紺地に色糸の縞や緋がよく映え、はなやかな印象をあたえます。令和 2 年 3 月に京都府指定無形民俗文化財に指定されました。
京織ふすま紙	
	京織ふすま紙は、天然素材を使用する織物で、自然の風合いと温かさを持ち、調湿、遮光、保温機能を有し、やぶれにくく、美しい意匠に富んだ製品です。日本全体の 9 割近くが木津川市内で製造されています。

(出典：木津川市 HP)

3.4. 観光

木津川市は、歴史的価値の高い史跡や神社仏閣、豊かな自然、町屋からなる歴史的景観などに恵まれています。仏教信仰の寺院や霊地の形成、特産品(お茶)を扱う商業活動などが活発化し、観光などの地域づくりに活用してきました。

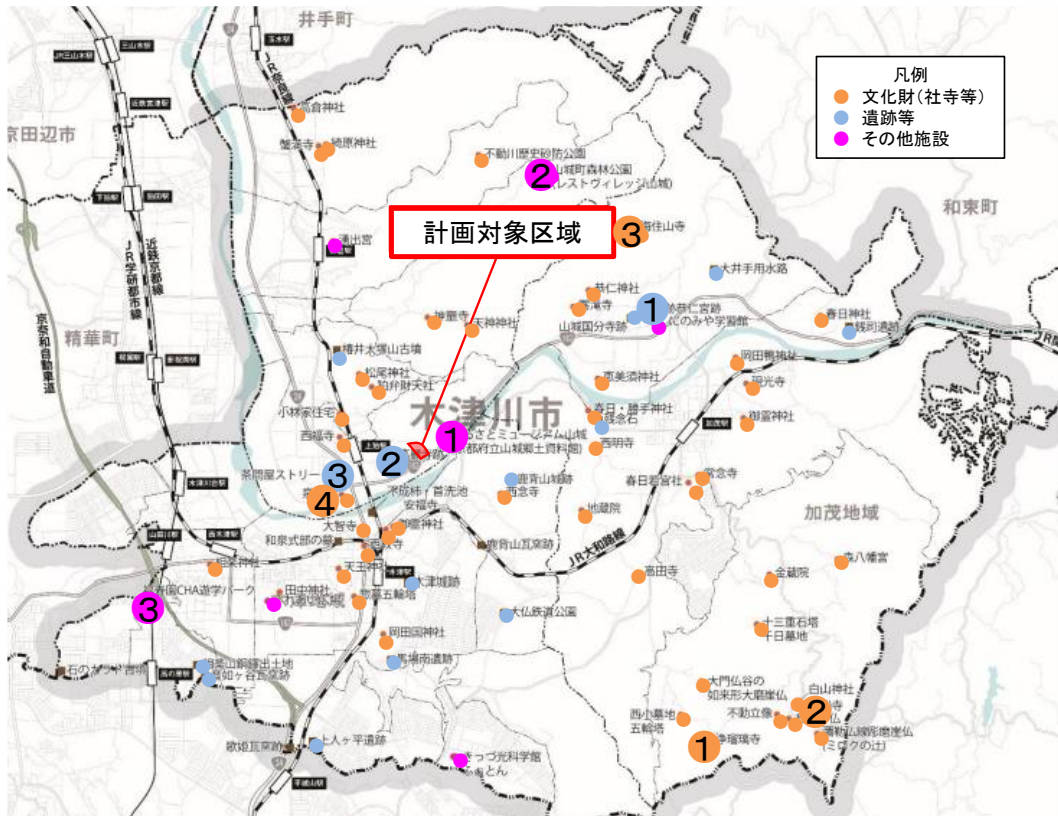


図 3-11 木津川市の主な観光資源

(出典：木津川市公共交通に係る現況報告)

表 3-3 木津川市の主な文化財（社寺等）

木津川市の主な文化財(社寺等)	
① 浄瑠璃寺	② 岩船寺
	
③ 海住山寺	④ 上粕茶問屋街 (日本遺産 構成文化財)
	

(出典：木津川市観光協会 HP、お茶の京都 HP)

表 3-4 木津川市の主な遺跡等

木津川市の主な遺跡等		
① 恭仁宮跡 (国指定史跡)	② 高麗寺跡	③ 福寿園茶問屋 ストリート資料館
		

(出典：木津川市 HP、木津川市観光協会 HP)

表 3-5 木津川市の主な観光施設（文化財、史跡等以外）

木津川市の主な観光施設(文化財、史跡等以外)		
① 山城郷土資料館	② 山城町森林公園 (レストヴィレッジ山城)	③ 福寿園CHA遊学パーク
		

(出典：木津川市観光協会 HP)

木津川市を含む京都府南部は「お茶の京都」エリアとして、お茶の産地ならではの風景やグルメ、お茶にまつわる文化体験の提供等を行っています。

「お茶の京都」の対象区域（12 市町村）の過去 3 年間の旅行消費額、延べ宿泊者数、来訪者満足度、リピーター率は以下のとおりで、新型コロナウイルス感染症が流行した令和 2 年度、令和 3 年度は、令和元年度に比べて旅行消費額や延べ宿泊者数が減少したものの、リピーター率は約 20%高くなっています。

表 3-6 お茶の京都 DMO の旅行消費額、延べ宿泊者数、来訪者満足度、リピーター率

項目	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
旅行消費額 (百万円)	223 (未)	136 (未)	138 (未)
延べ宿泊者数 (千人)	207 (7)	86 (2)	98 (0)
来訪者満足度 (%)	78 (96)	68 (-)	77 (-)
リピーター率 (%)	68 (16)	91 (-)	89 (-)

(出典：国土交通省観光庁 「観光地域づくり法人形成・確立計画」)

3.5. 防災

木津川市は河川の氾濫、山地からの土砂流出などの恐れがあり、自然災害への対策が急務になっています。

計画対象区域は、一級河川である木津川の流域に位置しており、対象区域の一部が0.5～3mの浸水が想定されていますが、その他の区域では被災リスクは想定されていません。

地震については、7段階評価のうち、5段階目の揺れやすさ（0.6～0.8）となっており、液状化の危険性はほとんどないエリアとなっています。

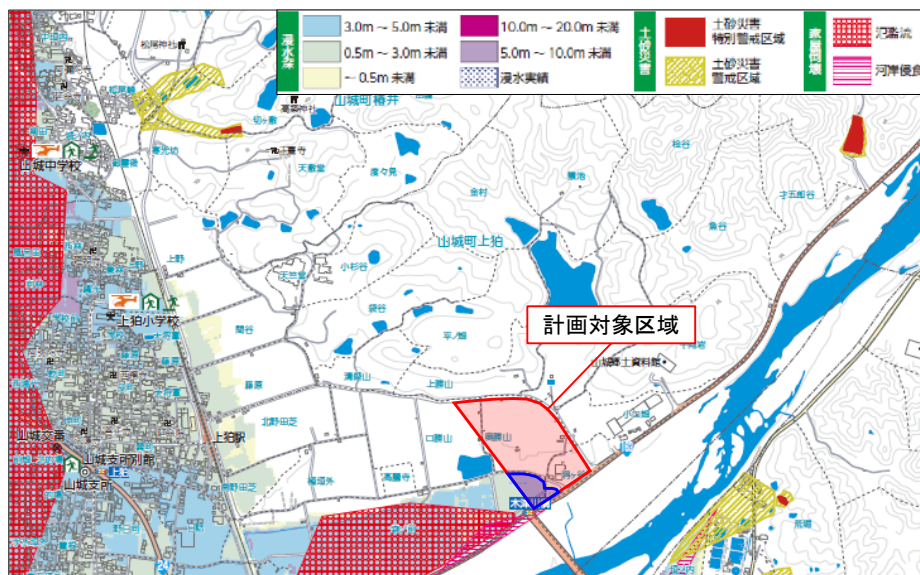


図 3-12 計画対象区域周辺のハザードマップ

(出典：木津川市ハザードマップ詳細地図)

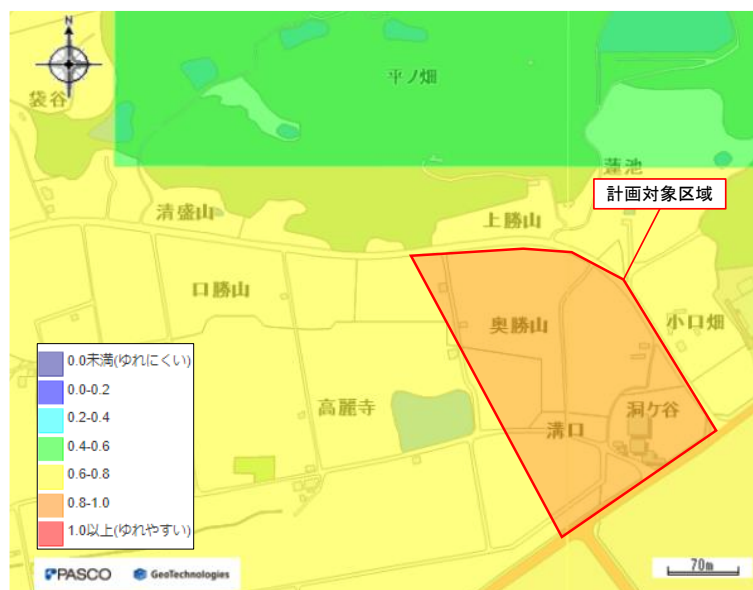


図 3-13 揺れやすさマップ

(出典：京都府「統合型地図情報システム[GIS]」)



図 3-14 計画対象区域周辺の液状化マップ

(出典：京都府「統合型地図情報システム[GIS]」)

国道 24 号は木津川右岸地域で防災拠点をつなぐ唯一の緊急輸送道路ですが、木津川や支流が氾濫した場合、浸水し通行不能となる可能性があります。新しく整備予定の国道 24 号城陽井手木津川バイパスは緊急輸送道路に指定されており、浸水想定区域を回避する道路ネットワークとして災害時の交通機能を確保し、救援活動・物資輸送に寄与するとされています。



図 3-15 洪水浸水区域と緊急輸送道路

(出典：国土交通省 近畿地方整備局 京都国道事務所 HP)

4. アンケート・ヒアリング調査の概要

木津川市にぎわい拠点施設基本構想を策定するにあたり、消費者目線及び運営者目線での意見を把握するため、以下の4つの調査を行いました。

表 4-1 アンケート・ヒアリング調査の概要

調査方法	対象者	目的
Web アンケート調査	地域住民 サイクリスト 一般ドライバー 職業ドライバー	にぎわい拠点施設に求める導入機能・施設や利用頻度など、消費者のニーズの傾向の把握
ヒアリング調査	木津川市内及び周辺 地域の関連団体	にぎわい拠点施設のコンセプト及び導入機能検討に向けた運営者目線での意見の把握
配布型アンケート調査	商工会会員	運営者目線での道の駅に対するニーズの把握、地元事業者に対する道の駅の機運の醸成
アンケート調査 個別ヒアリング調査	民間事業者	事業のポテンシャル、事業への参画意向の把握

4.1. Web アンケート調査

4.1.1. 調査概要

にぎわい拠点施設に求める導入機能・施設や利用頻度など、消費者のニーズの傾向を把握することを目的に Web アンケート調査を実施しました。

(1) 調査方法

リサーチ会社の Web アンケートのサーバー及びシステムを利用して、登録しているモニターにスクリーニング*調査、本調査の質問票を配布し、Web アンケート調査を実施

※スクリーニング：調査対象条件に合致する対象者を抽出するための事前調査であり、モニター登録情報（年齢、性別など）だけでは抽出できない場合において、2、3 問程度の簡単なアンケートを行うことにより、条件にあう回答者を抽出

(2) 調査対象者

調査対象者は、地域住民、サイクリスト、一般ドライバー、職業ドライバーとし、サンプル数は以下のとおりです。

表 4-2 調査対象者

対象者	サンプル数
【地域住民】 木津川市に住む 18 歳～79 歳の男女	250 サンプル
【サイクリスト】 関西圏（2 府 4 県）に住むサイクルツーリズム※を月に 1 回以上実施している 18 歳～79 歳の男女 ※サイクルツーリズム：「自転車に乗ることを主な目的としたツーリング」のことを指す	500 サンプル
【一般ドライバー】 近隣府県（大阪・京都・奈良・兵庫・滋賀・三重）に住む自動車を運転する 18 歳～79 歳の男女	500 サンプル
【職業ドライバー】 近隣府県（大阪・京都・奈良・兵庫・滋賀・三重）に住む道路旅客運送業、道路貨物運送業、ドライバー/配送スタッフの 18 歳～79 歳の男女	400 サンプル

(3) 調査の実施期間

調査の実施期間は以下のとおりです。

表 4-3 調査の実施期間

対象者	実施期間
地域住民	2022 年 9 月 16 日（金）～ 2022 年 9 月 20 日（火）
サイクリスト	2022 年 9 月 16 日（金）～ 2022 年 9 月 21 日（水）
一般ドライバー	2022 年 9 月 16 日（金）～ 2022 年 9 月 20 日（火）
職業ドライバー	2022 年 9 月 16 日（金）～ 2022 年 9 月 21 日（水）

4.1.2. 調査結果（抜粋）

にぎわい拠点施設の検討において、特に重要と考えられる調査結果（抜粋）は以下のとおりです。

(1) 地域住民対象

① 「木津川市」について市内外にPRしたいものや誇りに思うもの

回答の多かった上位5項目は以下のとおりで、「自然」が26件と最も多く、次いで「歴史、文化財、史跡」「タケノコ」「お茶」「柿」「住みやすさ、利便性」となっています。

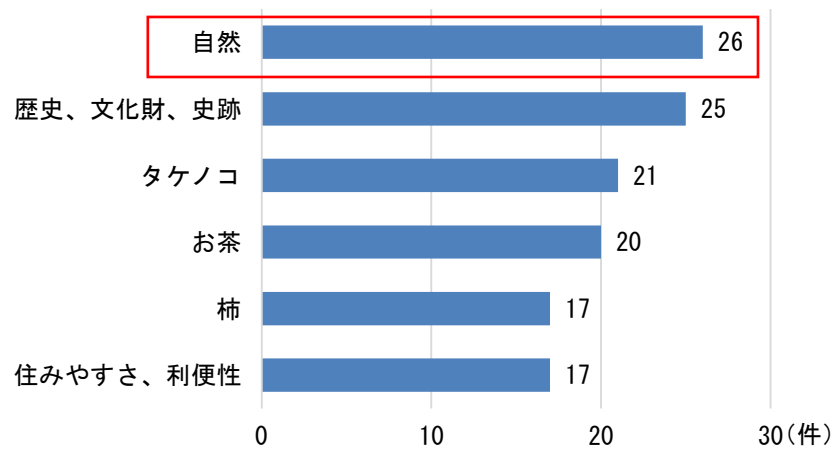
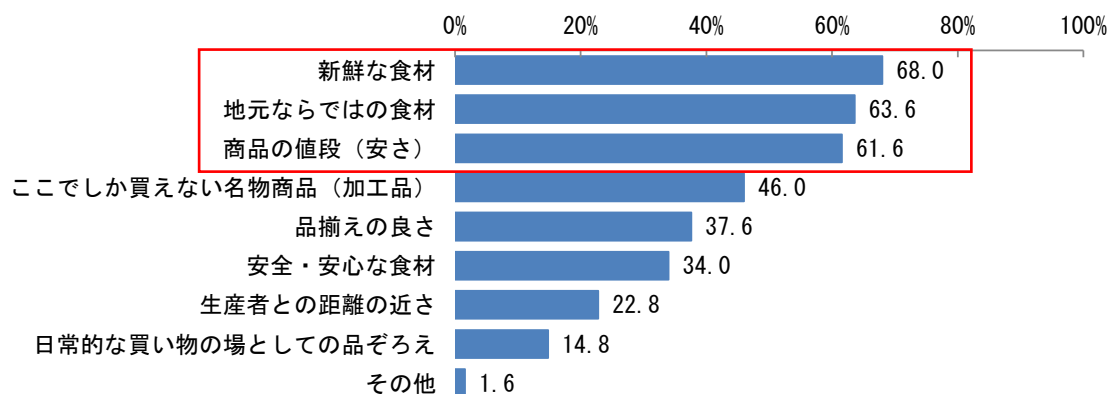


図 4-1 「木津川市」について市内外にPRしたいものや誇りに思うもの（上位5項目）

② 直売所で重視する点（複数回答可）

「新鮮な食材」と回答した方が68.0%と最も多く、次いで「地元ならではの食材」が63.6%、「商品の値段（安さ）」が61.6%となっています。

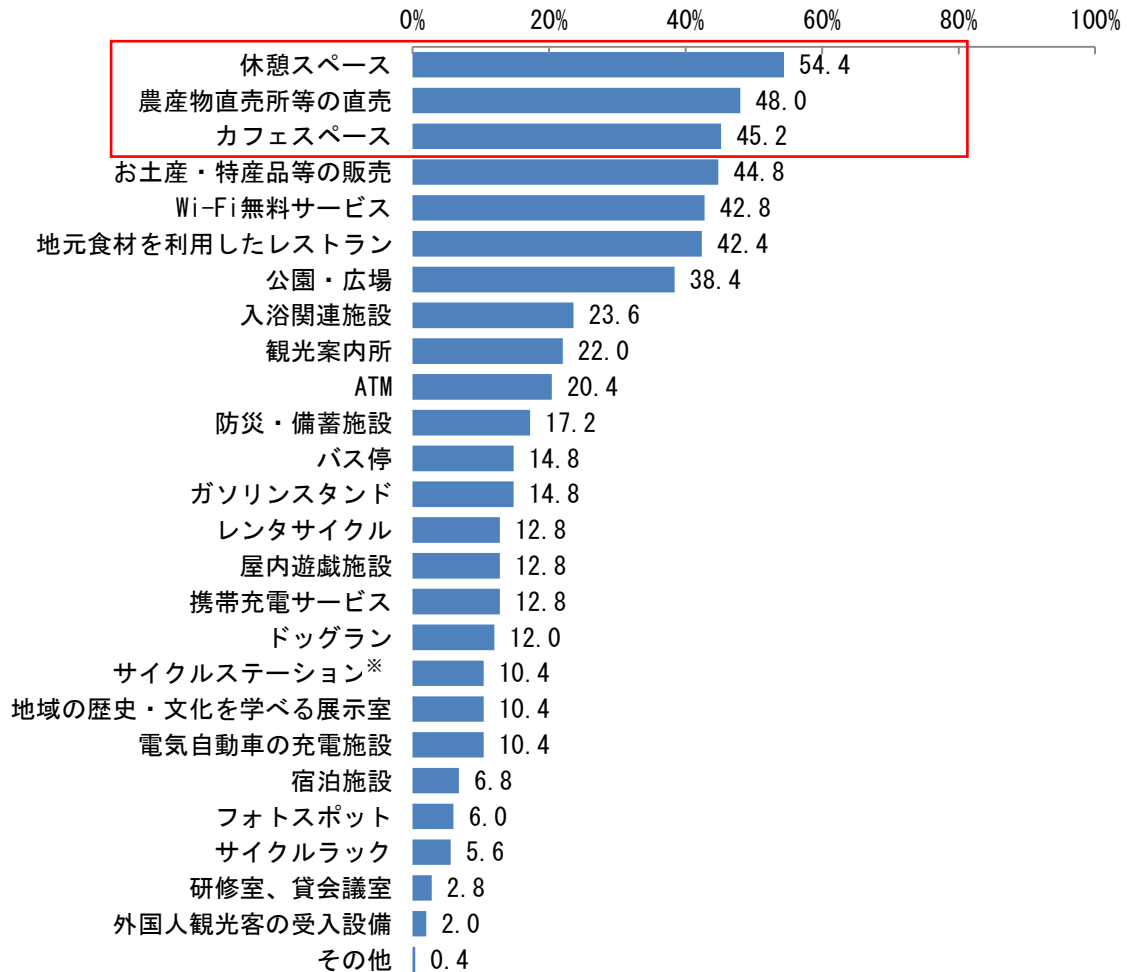


N=250

図 4-2 直売所で重視する点

③ トイレ・駐車場の他に導入してほしい機能、サービス（複数回答可）

「休憩スペース」が 54.4%と最も多く、次いで「農産物直売所等の直売」が 48.0%、「カフェスペース」が 45.2%となっています。



N=250

※サイクルステーション：自転車の空気入れや修理用具貸し出し

図 4-3 トイレ・駐車場の他に導入してほしい機能・サービス

④ 子どもと一緒に外出した際に外出先で困ったこと（複数回答可）

※「子どもがいる」と回答した方のみ回答

子育て世代である30代、40代に着目すると、40代は「乳幼児と共に入ることができるトイレがない」「子ども用の食事メニューがない」「3歳以上のお子さんが遊べる屋外遊戯施設がない」が困ったこととして比較的回答が多かった意見となっております。

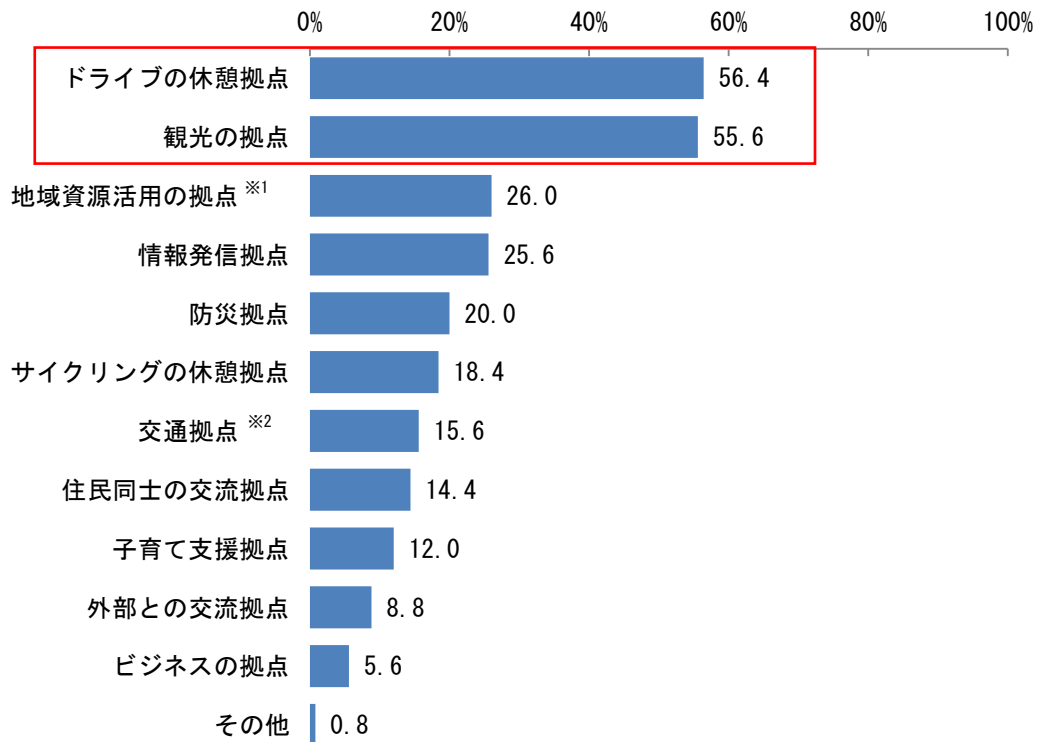
30代は、「オムツ交換台がない」「0歳～2歳のお子さんが安心して遊べる屋内遊戯施設がない」「子ども用の食事メニューがない」「紙オムツを買える場所がない」と回答した方の割合が高くなっております。

表 4-4 年代×子どもと一緒に外出した際に外出先で困ったこと

		n	乳幼児と共に入ることができるトイレ（ベビーカーごと入ることができるトイレ／ベビーカー付きトイレ）がない	子ども用トイレがない	オムツ交換台がない	授乳室がない	紙オムツを買える場所がない	赤ちゃん用液体ミルクを買える場所がない	子ども用の食事メニューがない	0歳～2歳（乳児）のお子さんが安心して遊べる屋内遊戯施設がない	0歳～2歳（乳児）のお子さんが安心して遊べる屋外遊戯施設がない	3歳以上のお子さんが遊べる屋内遊戯施設がない	3歳以上のお子さんが遊べる屋外遊戯施設がない	障がいがあるお子さんが安心して遊べる屋内遊戯施設がない	障がいがあるお子さんが安心して遊べる屋外遊戯施設がない	特に困ったことはない	その他
全体		176	32	25	34	18	21	9	36	28	18	25	29	4	5	89	3
		100.0	18.2	14.2	19.3	10.2	11.9	5.1	20.5	15.9	10.2	14.2	16.5	2.3	2.8	50.6	1.7
年代	10代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代	2	2	0	1	0	0	0	2	1	0	1	1	0	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30代	22	8	8	12	7	10	3	11	12	6	7	7	1	1	2	0
		100.0	36.4	36.4	54.5	31.8	45.5	13.6	50.0	54.5	27.3	31.8	31.8	4.5	4.5	9.1	0.0
	40代	37	11	9	6	5	6	2	11	8	6	9	10	2	2	11	1
		100.0	29.7	24.3	16.2	13.5	16.2	5.4	29.7	21.6	16.2	24.3	27.0	5.4	5.4	29.7	2.7
年代	50代	57	7	4	11	4	3	2	7	7	6	5	8	1	1	34	0
		100.0	12.3	7.0	19.3	7.0	5.3	3.5	12.3	12.3	10.5	8.8	14.0	1.8	1.8	59.6	0.0
	60代	34	3	2	2	1	1	1	5	0	0	2	2	0	0	22	1
年代		100.0	8.8	5.9	5.9	2.9	2.9	2.9	14.7	0.0	0.0	5.9	5.9	0.0	0.0	64.7	2.9
	70代	24	1	2	2	1	1	1	0	0	0	1	1	0	0	20	1
		100.0	4.2	8.3	8.3	4.2	4.2	4.2	0.0	0.0	0.0	4.2	4.2	0.0	0.0	83.3	4.2

⑤ 道の駅の整備で期待すること

「ドライブの休憩拠点」が56.4%と最も多く、次いで「観光の拠点」が55.6%と「ドライブの休憩拠点」と「観光の拠点」が突出して多くなっています。



N=250

※1：例）お茶を活用した体験施設 等

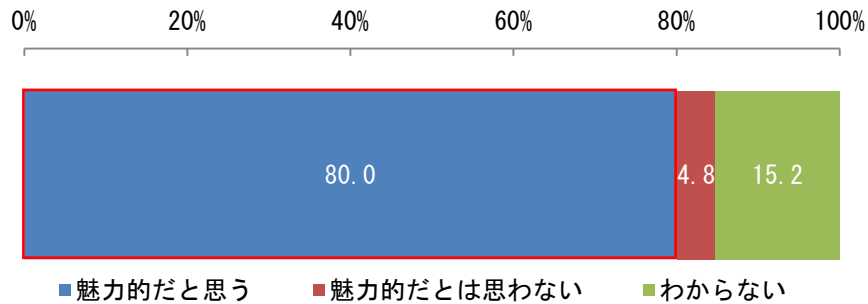
※2：バスや自動車、自転車といった様々な移動手段が集中し、それぞれ接続する拠点

図 4-4 道の駅整備で期待すること

(2) サイクリスト対象

① 京奈和自転車道を走る上での新たな休憩施設設置の魅力について

「魅力的だと思う」と回答した方が 80.0%と大半を占めています。

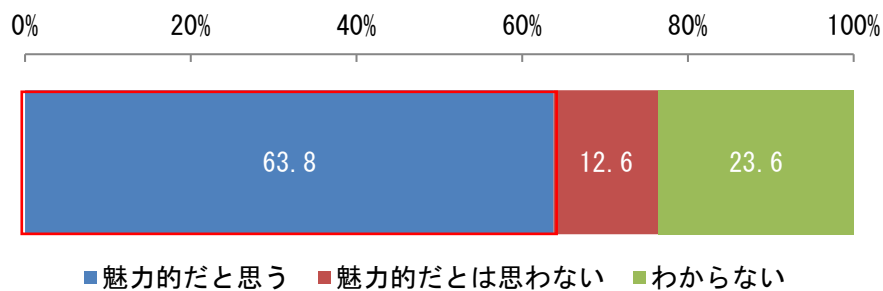


N=500

図 4-5 京奈和自転車道を走る上で、新たな休憩施設の設置は魅力的だと思うか

② 京奈和自転車道を走る上での新たな宿泊施設設置の魅力について

「魅力的だと思う」と回答した方が 63.8%と過半数を占めています。



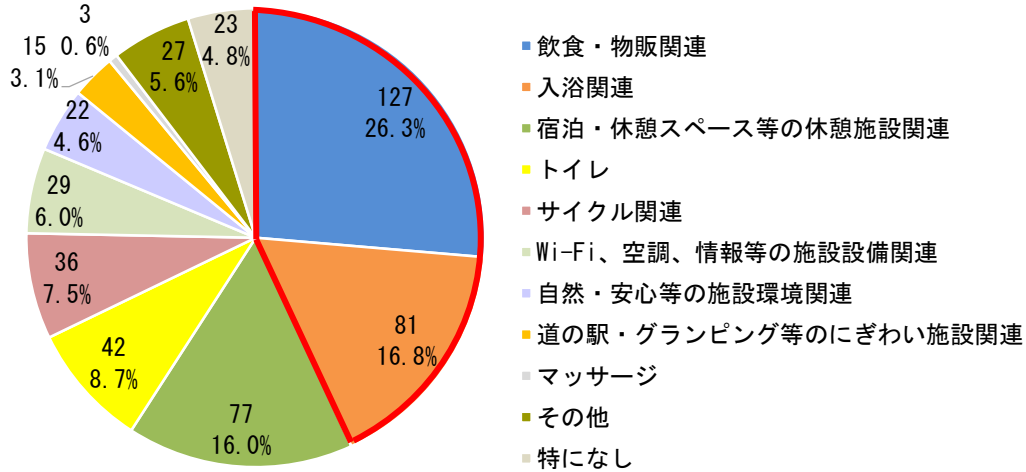
N=500

図 4-6 京奈和自転車道を走る上で、新たな宿泊施設の設置は魅力的だと思うか

③ 休憩施設としてほしい主な機能（複数回答可）

※①で「魅力的だと思う」と回答した方のみ回答

「飲食・物販関連」が26.3%と最も高く、次いで「入浴関連」が16.8%となっています。

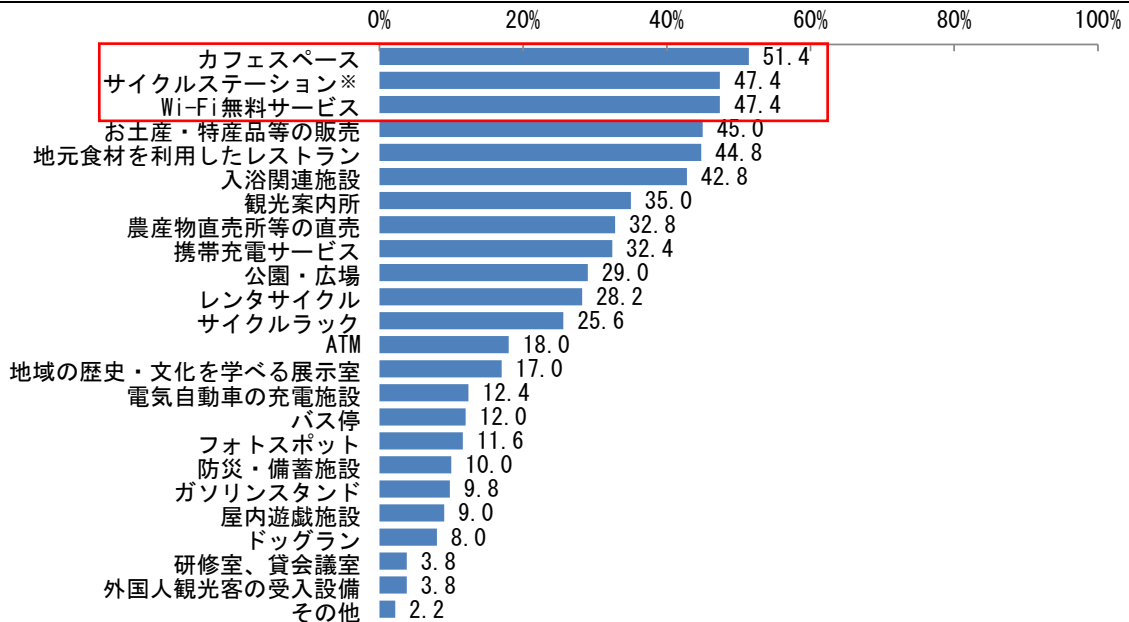


N=482

図 4-7 休憩施設としてほしい主な機能

④ 休憩施設、宿泊施設の他に導入してほしい機能・サービス（複数回答可）

「カフェスペース」と回答した方が51.4%と最も多く、次いで「サイクルステーション（自転車の空気入れや修理用具貸し出し）」「Wi-Fi 無料サービス」が47.4%となっています。



N=500

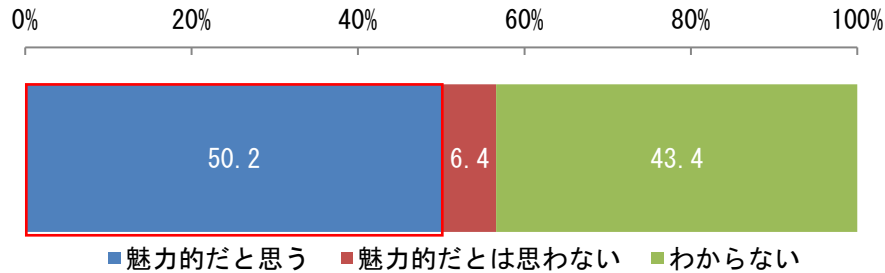
※サイクルステーション：自転車の空気入れや修理用具貸し出し

図 4-8 休憩施設、宿泊施設の他に導入してほしい機能・サービス

(3) 一般ドライバー

① 国道 163 号を走る上での新たな休憩施設設置の魅力について

「魅力的だと思う」と回答した方が 50.2%と約半数となっています。



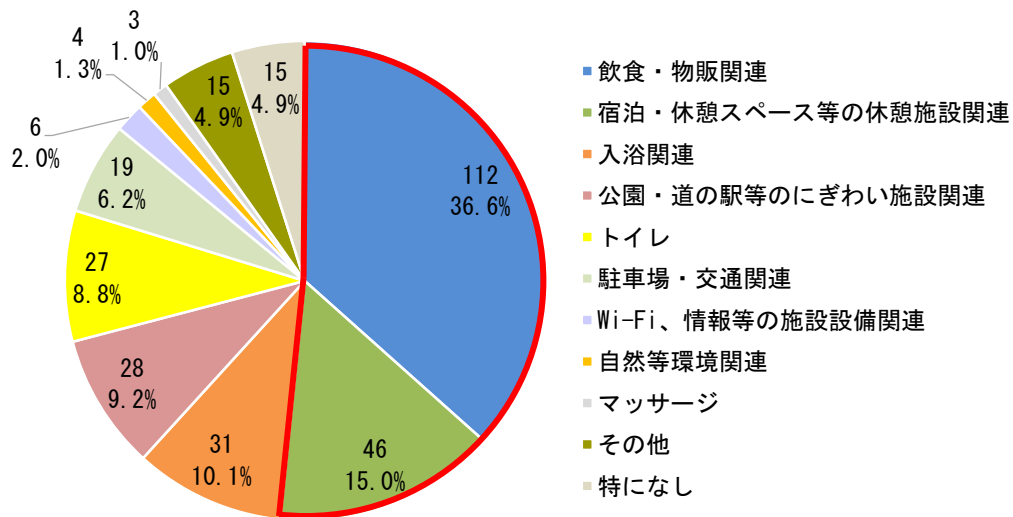
N=500

図 4-9 国道 163 号を走る上で、新たな休憩施設の設置は魅力的だと思うか

② 休憩施設としてほしい主な機能（複数回答可）

※①で「魅力的だと思う」と回答した方のみ回答

「飲食・物販関連」が 36.6%と最も高く、次いで「宿泊・休憩スペース等の休憩施設関連」が 15.0%となっています。

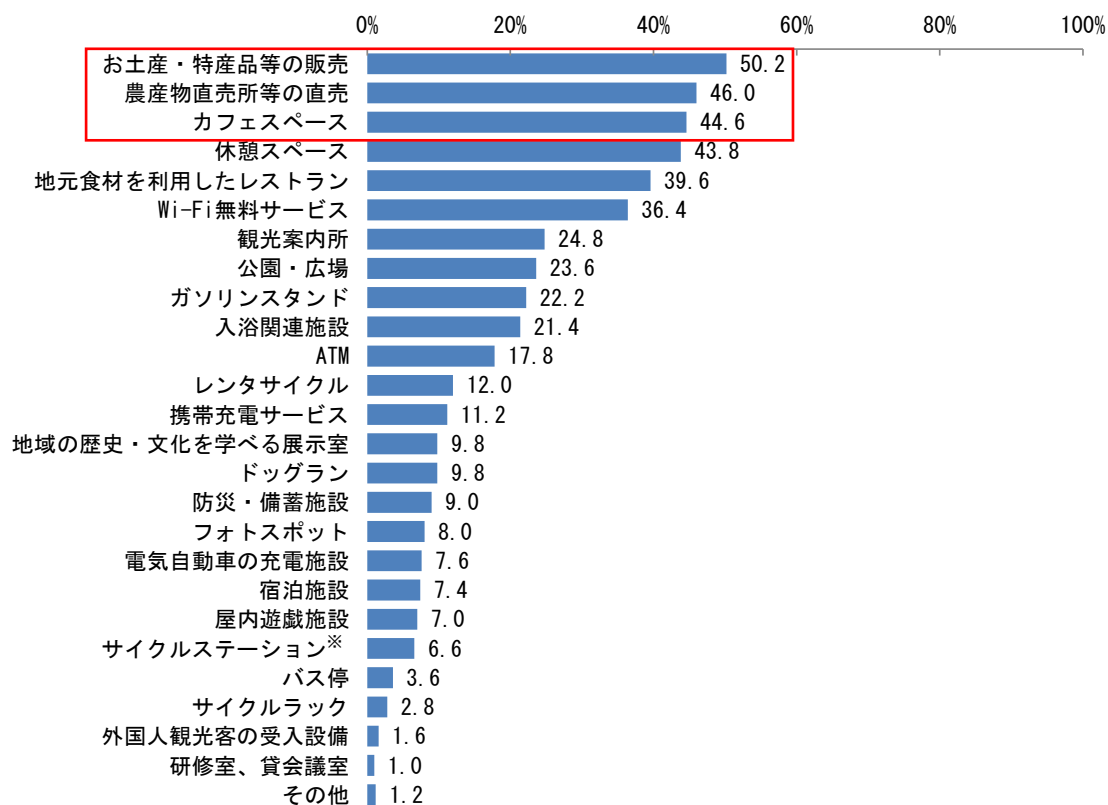


N=306

図 4-10 休憩施設としてほしい主な機能

③ 休憩施設の他に導入してほしい機能・サービス（複数回答可）

「お土産・特産品等の販売」が 50.2%と最も多く、次いで「農産物直売所等の直売」が 46.0%、「カフェスペース」が 44.6%となっています。



N=500

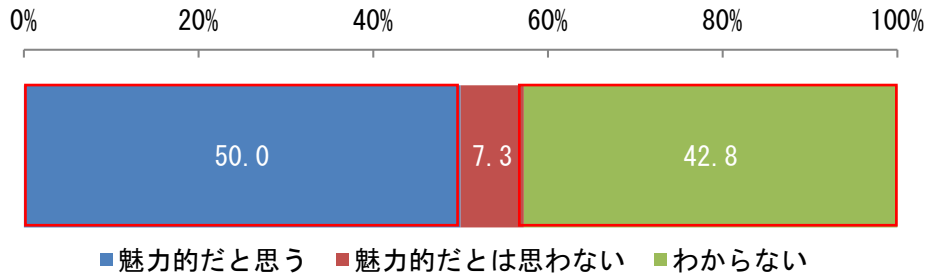
※サイクルステーション：自転車の空気入れや修理用具貸し出し

図 4-11 休憩施設の他に導入してほしい機能・サービス

(4) 職業ドライバー

① 国道 163 号を走る上での新たな休憩施設設置の魅力について

「魅力的だと思う」と回答した方が 50.0%と半数であり、次いで「わからない」と回答した方が 42.8%となっています。



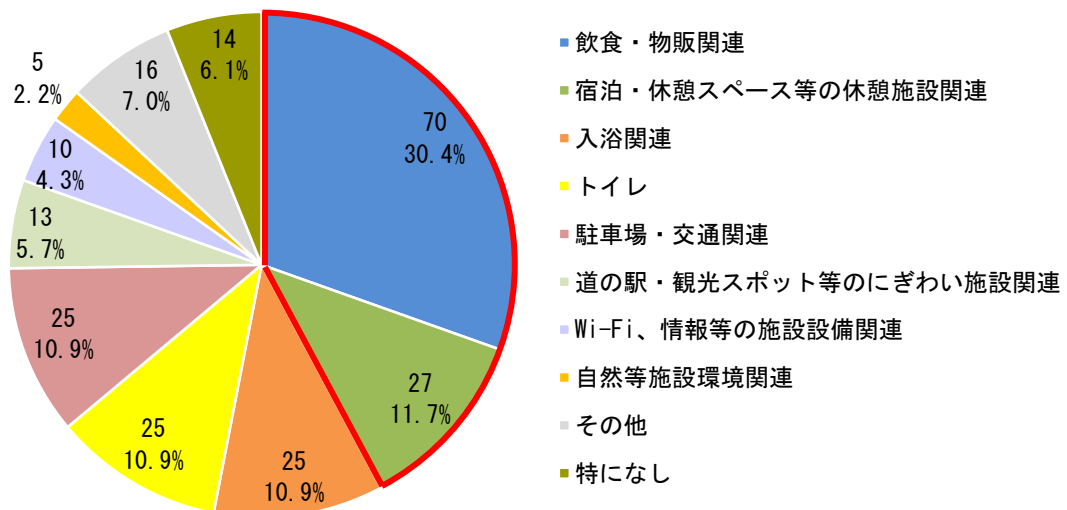
N=400

図 4-12 国道 163 号を走る上で、新たな休憩施設の設置は魅力的だと思うか

② 休憩施設としてほしい機能（複数回答可）

※①で「魅力的だと思う」と回答した方のみ回答

「飲食・物販関連」が 30.4%と最も高く、次いで「宿泊・休憩スペース等の休憩施設関連」が 11.7%となっています。

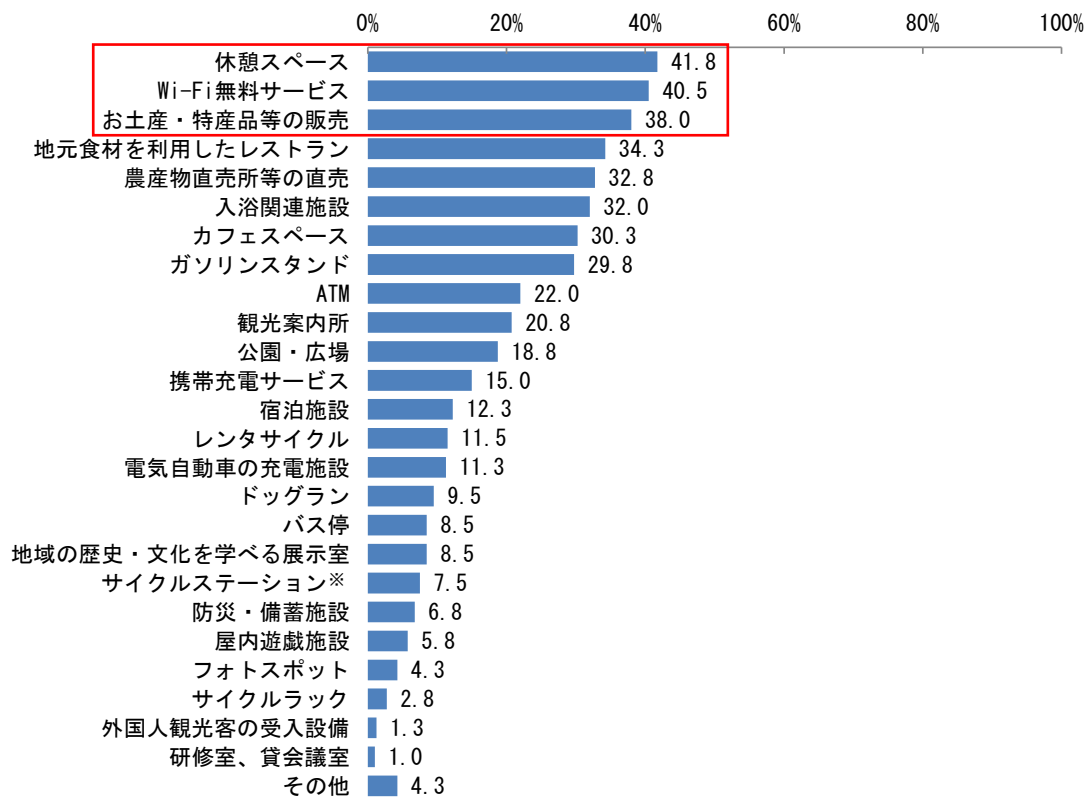


N=230

図 4-13 休憩施設としてほしい主な機能

③ 休憩施設、宿泊施設の他に導入してほしい機能・サービス（複数回答可）

「休憩スペース」と回答した方が41.8%で最も多く、次いで「Wi-Fi 無料サービス」が40.5%、「お土産・特産品等の販売」が38.0%となっています。



N=400

※サイクルステーション：自転車の空気入れや修理用具貸し出し

図 4-14 休憩施設、宿泊施設の他に導入してほしい機能・サービス

4.2. ヒアリング調査

4.2.1. 調査概要

にぎわい拠点施設のコンセプト及び導入機能検討に向けた運営者目線での意見を把握することを目的にヒアリング調査を実施しました。

(1) 調査方法

対面によるヒアリング調査

(2) 調査スケジュール及び調査対象者

木津川市内及び周辺地域の関連団体を対象に、2022年8月19日～10月13日にヒアリング調査を実施しました。

表 4-5 調査スケジュール及び調査対象者

スケジュール	対象者
2022年8月19日（金）	一般社団法人 木津川市商工会
2022年9月12日（月）	JA 京都やましろ
2022年9月27日（火）	一般社団法人 木津川市観光協会
2022年9月30日（金）	木津川市地域公共交通総合連携協議会 事業者委員
2022年10月7日（金）	山城茶業組合
2022年10月13日（木）	一般社団法人 京都山城地域振興社（お茶の京都 DMO）

4.2.2. 調査結果（抜粋）

にぎわい拠点施設の検討において、特に重要と考えられる調査結果（抜粋）は以下のとおりです。

(1) 解決したい主な課題

解決したい主な課題として、以下が挙げられました。

【地域の課題】

- ・ 交通対策（国道24号の渋滞、2次交通の利便性向上、バスの赤字負担）
- ・ 観光施設の充実化（飲食施設、宿泊施設、集客施設）
- ・ 高齢化や時代変遷による茶の生産力や人気の減少
- ・ 事業者間の連携不足

【施設の課題】

- ・敷地内の整備（加工施設の整備、トイレの追加整備、お土産スペース、チラシ配置）
- ・駐車場の不足
- ・閑散期対策
- ・広報、PR 活動

(2) にぎわい拠点施設への要望

にぎわい拠点施設への主な要望として、以下が挙げられました。

【コンセプト】

- ・若い人が集まれ活躍できる
- ・地元商品を集約、販売できる拠点
- ・そこでしか味わえない体験

【導入機能】

- ・近隣にある宿泊施設とターゲットを分けて、特色を出した宿泊機能
- ・ターゲットやニーズの把握による適切な機能導入
- ・加工施設の整備
- ・農産物直売所の移設拡充
- ・伝統産業の紹介
- ・パンフレットや相談窓口の設置
- ・お茶イベントの開催

【その他】

- ・交通対策（出店時の事故対策、駅間を周遊できるバス整備、ロータリー整備、十分な駐車場の確保）

4.3. 配布型アンケート調査

4.3.1. 調査概要

運営者目線での道の駅に対するニーズの把握、地元事業者に対して道の駅の機運を醸成することを目的に商工会会員への配布型アンケート調査を実施しました。

(1) 調査方法

商工会だよりを通じて、配布型アンケートにより実施

(2) 調査対象者

調査対象者は、木津川市商工会の会員とし、サンプル数は以下のとおりです。

表 4-6 調査対象者

対象者	サンプル数
木津川市商工会の会員	1,000

(3) 調査の実施期間

調査の実施期間は以下のとおりです。

表 4-7 調査の実施期間

対象者	実施期間
商工会会員	2022年10月7日（金）～2022年10月21日（金）

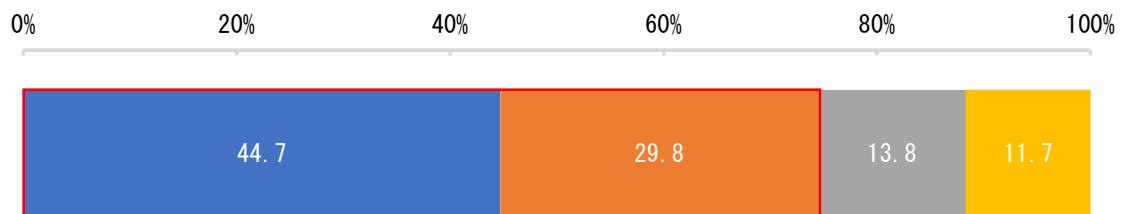
4.3.2. 調査結果

にぎわい拠点施設の検討において、特に重要と考えられる調査結果（抜粋）は以下のとおりです。

(1) 事業者について

① 業務内容

「商品の販売・製造」が44.7%と最も多く、次いで「サービスや技術の提供」が29.8%となっています。



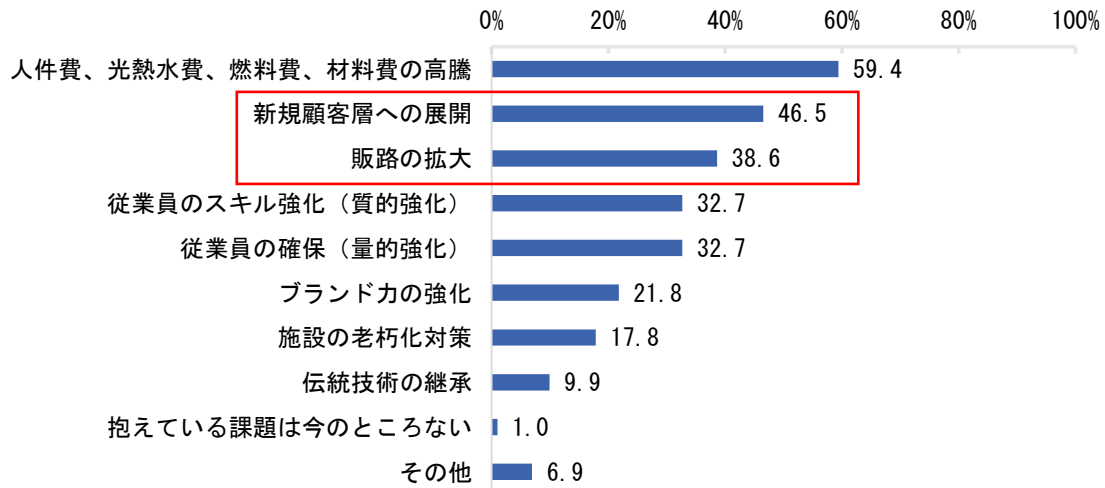
- 商品の販売・製造をしている（製造業、卸売業、小売業など）
- サービスや技術を提供している（飲食サービス業、生活サービス業、技術サービス業など）
- どちらも行っている
- どちらでもない

N=94

図 4-15 業務内容

② 現在抱えている課題（複数回答）

「人件費、光熱水費、燃料費、材料費の高騰」が 59.4%で最も多く、次いで「新規顧客層への展開」が 46.5%、「販路の拡大」が 38.6%となっています。



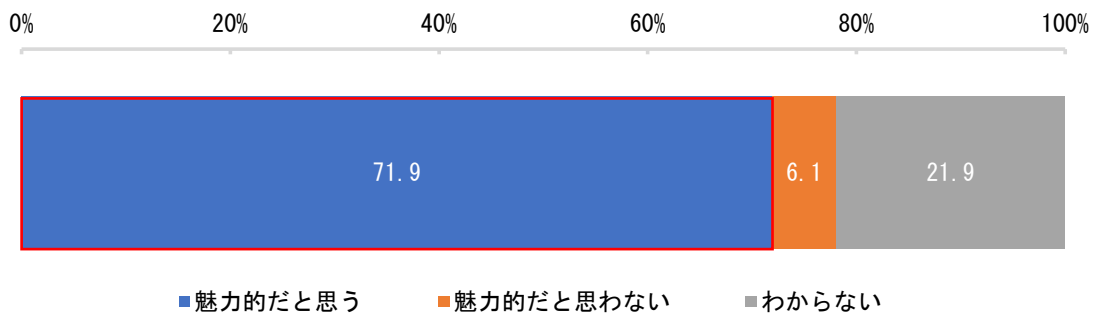
N=101

図 4-16 現在抱えている課題

(2) 道の駅について

① 木津川市に「にぎわい拠点施設（道の駅）」を設置することの魅力度

「魅力的だと思う」と答えた人は 71.9%で最も多く、次いで「わからない」と答えた人が 21.9%となっています。



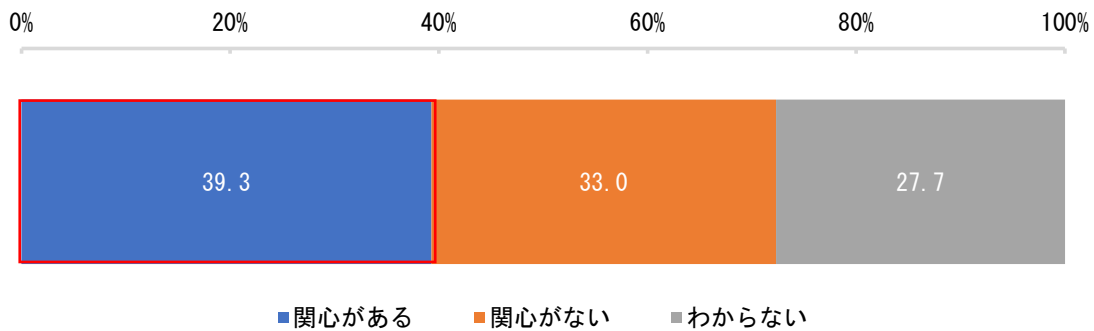
N=114

図 4-17 木津川市に「にぎわい拠点施設（道の駅）」を設置することの魅力度

(3) 道の駅での事業参画の可能性について

① 「にぎわい拠点施設（道の駅）」での事業参画への関心

「関心がある」が 39.3%で最も多く、次いで「関心がない」が 33.0%、「わからない」との回答も 27.7%とほぼ同数となっています。



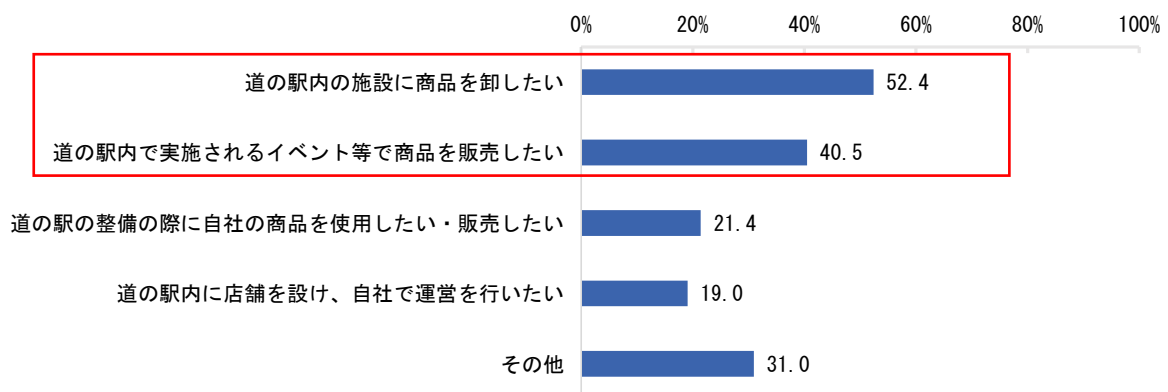
N=112

図 4-18 「にぎわい拠点施設（道の駅）」での事業参画への関心

② 道の駅で実施したいこと（複数回答）

※①で「関心がある」と回答した方のみ回答

「道の駅内の施設に商品を卸したい」が 52.4%で最も多く、次いで「道の駅内で実施されるイベント等で商品を販売したい」が 40.5%となっています。



N=42

図 4-19 道の駅で実施したいこと

4.4. 民間事業者への意向調査

4.4.1. 調査概要

「にぎわい拠点施設」の機能や管理・運営手法を検討するにあたって、民間事業者からの意見を参考とし、①事業のポテンシャル、②事業への参画意向を把握することを目的に実施しました。

(1) 調査方法

アンケート形式及び個別ヒアリング調査

(2) 調査対象業種

以下の業種に調査を行い、個別ヒアリング調査の対象は、アンケート調査を実施した民間事業者のうち、個別ヒアリング調査への協力を得た民間事業者を対象に実施しました。

表 4-8 調査対象業種

業種	アンケート調査対象数	個別ヒアリング調査対象数
建設	5 社	4 社
デベロッパー	1 社	1 社
飲食・物販	3 社	2 社
宿泊	2 社	1 社
温浴	2 社	2 社
子育て支援	2 社	2 社
銀行	3 社	3 社
合計	18 社	15 社

(3) 調査の実施期間

調査の実施期間は以下のとおりです。

表 4-9 調査の実施期間

調査方法	実施期間
アンケート調査	2023 年 1 月 10 日（火）～ 2023 年 1 月 20 日（金）
個別ヒアリング調査	2023 年 2 月 6 日（月）～ 2023 年 2 月 24 日（金）

4.4.2. 調査結果

本エリアのポテンシャルと参画意向にかかるアンケート調査結果は以下のとおりです。

(1) 本エリアのポテンシャル

「どちらともいえない」が大半となっております。

【「高い」と回答した主な理由】(4 社)

- ・ 国道 24 号及び国道 163 号が通る
- ・ 鉄道は JR 奈良線、学研都市線、関西本線が木津駅で合流している
- ・ 人口が増加している
- ・ 海外からを含め観光誘客できる観光資源を有している
- ・ 新名神高速道路城陽 SIC の開通後は、奈良に向かう入口としての価値が出る

【「どちらともいえない」と回答した主な理由】(11 社)

- ・ 現時点、本件場所での 163 号は通過交通であり、これだけの大きな規模で道の駅としての集客、観光客の集客がどの程度あるか疑問
- ・ 新名神高速道路から木津川市方向への交通が増えれば需要があるが、逆方向の交通量が増える場合は需要にはつながらないかもしれない

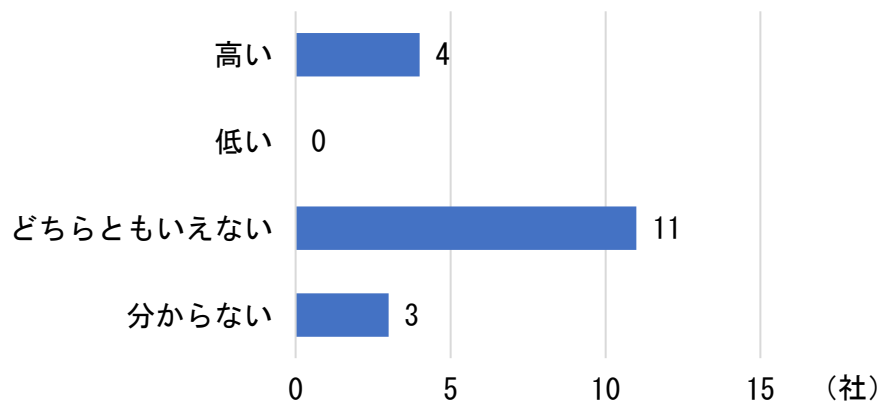


図 4-20 本エリアのポテンシャル

(2) 参入意向

「参入の可否を検討したい」が最も多くなっております。

【「参入したい」と回答した主な理由】(1社)

・本エリアは多種多様の自然と文化がある

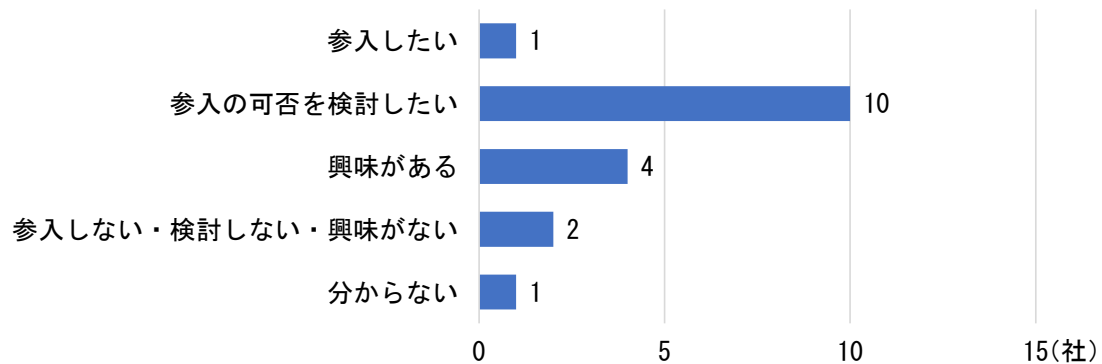


図 4-21 参入意向

(3) その他回答結果

その他アンケート調査結果及び個別ヒアリング調査結果は、対象事業者への配慮から、非公表とさせていただきます。

5. 木津川市の現状・課題・整備の方向性

木津川市の現状、アンケート・ヒアリング調査結果より、木津川市における 5 つの課題を整理し、これらの課題解決に資する施設として、各課題に対する「にぎわい拠点施設の整備の方向性」を設定しました。

現状		課題	整備の方向性
人口	関西文化学術研究都市の中核地としてのまちづくりが進み、良質で魅力的な住環境が形成され、令和 4 年 1 月 1 日時点の 年少人口率は京都府や全国平均より高く 、高齢化率は京都府や全国平均よりも低くなっています。	一方で、地域住民へのアンケートより、子どもと一緒に外出した際に外出先で困ったこととして、 子どもが安心して遊べる屋内／屋外遊戯施設がない 等の意見が挙げられており、 子育て・子育てのまちづくりが必要 です。	子育て世代が安心して 利用ができ、 繋がりが生まれるにぎわい拠点の整備
交通	国道 24 号や国道 163 号が通り、 京都、大阪、奈良へのアクセスが良好 です。国道 24 号は慢性的に混雑しており、計画対象区域に隣接する 国道 24 号城陽井手木津川バイパスの新設工事 が進められています。	関連団体へのヒアリングやドライバー、サイクリストへのアンケートより、 トイレ等の休憩施設の整備 が挙っており、 交通の要衝である立地 を活かした道路利用者のための 休憩施設が必要 です。	利便性に優れた 交通結節点、休憩施設の整備
産業	特産品には、タケノコ、茶、柿など、地場産品には相楽木綿、京織ふすま紙などがあります。木津川市は、里地里山、木津川などの 豊かな自然に恵まれた環境の中で、多くの特産品などの地域産業 を生み出してきました。	農業経営者の高齢化 が進んでいる他、関連団体や商工会会員より解決したい課題として 地域住民の雇用創出、新規顧客層への展開や販路の拡大 が求められており、 市内の産業振興・活性化が必要 です。	木津川市のブランドを確立 させ、商品の PR、継続して販売できる施設の整備
観光	歴史的価値の高い 史跡や神社仏閣、豊かな自然、町屋からなる歴史的景観などに恵まれています 。仏教信仰の寺院や霊地の形成、特産品(お茶)を扱う商業活動などが活発化し、観光などの地域づくりに活用してきました。	道路網整備等、 観光客の来訪環境の変化 も踏まえ、関連団体へのヒアリングより、改善したい課題として 情報発信、お茶を楽しめる飲食施設整備 が挙っており、 地域の価値向上に向けた魅力発信が必要 です。	「木津川市ならではの」 を見つけることができるにぎわい拠点の整備
防災	計画対象区域の一部は 0.5～3m の浸水想定区域に含まれます。 国道 24 号城陽井手木津川バイパスは、浸水想定区域を回避する道路ネットワーク として災害時も交通機能の確保が可能となります。	木津川の氾濫、山地からの土砂流出等の恐れ がありますが、計画対象区域はリスクが小さく、国道 24 号城陽井手木津川バイパスが 緊急輸送道路に指定 されていることから、 被害を最小限に留める施設整備が必要 です。	災害時など非常時における地域住民の安心・安全な暮らしを守る 防災拠点の整備

6. にぎわい拠点施設の整備コンセプト（案）

整備の方向性を踏まえ、にぎわい拠点施設のコンセプトを次のように設定します。

子どもも大人も心やすらぐ旅ごころ ～きづがわを感じ、心やすらぐみんなのにぎわい拠点～

木津川市は京都から奈良の通過点になっていることや、地域住民が PR したいこととして「自然」「歴史・文化財」「お茶」を挙げていることから、奈良と京都の休憩を取りながら、「**木津川**」の「**自然**」や「**お茶**」を活かして**旅気分を味わうことができる**とともに、地域住民にとっても非日常感を味わえるコンテンツを導入し、にぎわいの創出を図ります。また、子どもが遊べる施設が求められていることから、子どもと楽しむことができる施設整備を行い、**だれもが安心して利用できる施設**とします。

7. 導入機能（案）

木津川市の課題解決の視点、アンケート・ヒアリング調査結果、整備の方向性を踏まえ、にぎわい拠点施設の導入機能（案）を検討しました。

7.1. 休憩機能（道の駅登録要件）

(1) 駐車場

■概要

- ・道路利用者の休憩場所となる「道の駅」に立ち寄るための、24 時間無料で利用できる十分な容量を持った駐車場
- ・その他計画している各施設の来訪者用駐車場

■整備方針

- ・大型車と小型車は別途駐車場所を設けます。
- ・障がい者や妊婦など様々な人の使いやすさに配慮し、屋根付き優先駐車スペースを設けます。
- ・二輪車や自転車使用者が自動車と混在しないよう別途駐車場所を確保します。
- ・「木津川市気候非常事態・ゼロカーボンシティ宣言」に即し、電気自動車用充電設備を設置することを検討します。

整備イメージ



EV 充電スタンド
道の駅西条のん太の酒蔵

道の駅 西条のん太の酒蔵HP
<https://www.nonta-sakagura.com/>



屋根付き優先駐車スペース
道の駅ゆとりパークたまがわ

国土交通省 Press Release
「サービスエリアや「道の駅」における子育て応援の今後の
取り組み方針をとりまとめました」（平成 30 年 9 月 28 日）

(2) トイレ

■概要

- ・「にぎわい拠点施設」の利用者が誰でも24時間利用できる清潔なトイレ

■整備方針

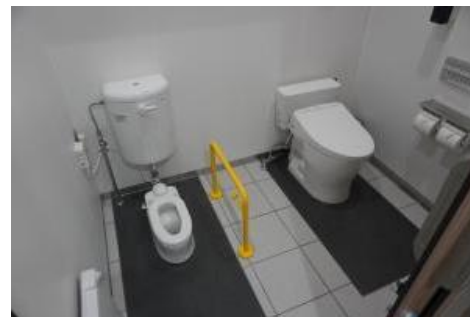
- ・トイレは原則洋式とし、温水洗浄便座を設置します。
- ・誰でも利用できるようにユニバーサルデザインを導入します。
- ・子育て世代が使いやすいよう、子ども用トイレを設けます。
- ・内装は明るく開放感のある快適なものとしします。

整備イメージ



明るく開放感のあるトイレ
道の駅パティオにいがた

にいがた観光ナビHP
<https://niigata-kankou.or.jp/blog/584>



子ども用トイレ
道の駅丹波おばあちゃんの里

丹波市HP
<https://www.city.tamba.lg.jp/soshiki/kankou/familytoiletmichiobasato.html>

(3) 無料休憩所

■概要

- ・道路利用者等が運転の疲れなどを快適にリフレッシュできるスペース

■整備方針

- ・道路利用者だけでなく地域住民が日常的に集うことができるよう、いすやテーブル等を配置します。
- ・様々な活動や用途に用いることができるよう広いスペースとします。

整備イメージ



休憩スペース
道の駅あいろ〜ど厚田

道の駅石狩 あいろ〜ど厚田HP
<http://aikaze.co.jp/>



休憩スポット
道の駅とよはし

道の駅とよはしHP
<https://michinoeki-toyohashi.jp/>

(4) Wi-Fi 無料サービス

■概要

- ・誰でも24時間利用可能なWi-Fi無料サービス

■整備方針

- ・24時間利用できるWi-Fi無料サービスを設置します。

整備イメージ



道の駅スポット Wi-Fi
道の駅みそぎの郷きこない

道の駅みそぎの郷きこないHP
<https://kikonai.jp/post-2174/>

7.2. 情報発信機能（道の駅登録要件）

(1) 道路情報・観光案内施設

■概要

- ・道の駅を訪れた人が観光情報、道路情報、緊急医療情報やその他利用者の利便に供する情報が得られるスペース

■整備方針

- ・原則として案内員を配置します。
- ・道路情報が一目で見てわかるような配置とします。
- ・地域及び近隣地域の観光情報や道の駅の魅力が伝わるようパンフレット等を設置できる整備とします。
- ・情報は多言語対応とし、外国人観光案内所の設置を検討します。（道の駅第3ステージ取組目標）

整備イメージ



観光案内所・情報発信コーナー
道の駅雨晴

道の駅雨晴HP
<https://michinoeki-amaharashi.jp/>



観光情報案内
道の駅伊豆ゲートウェイ函南

伊豆ゲートウェイ函南HP
<https://www.izugateway.com/>

7.3. 地域連携機能（道の駅登録要件）

(1) 農産物直売所

■概要

- ・木津川市ならではの地元野菜をはじめとした新鮮で質の高い野菜・惣菜等の販売コーナー

■整備方針

- ・農産物の良さや安全性を消費者に伝えることで、安心や購買意欲の向上を図るため生産者の顔写真を展示する売り場とします。
- ・地域の経済的波及効果、購入に繋げるため、「道の駅」内のカフェ等で提供される一部の食材を販売する売り場とします。
- ・明るく開放的な空間とし、常に新鮮な野菜を提供できる陳列方法とします。

整備イメージ



開放感のある農産物直売所

道の駅神戸フルーツ・フラワーパーク大沢

道の駅 神戸フルーツ・フラワーパーク大沢HP
<https://fruit-flowerpark.jp/>



生産者の顔がわかる展示

道の駅足柄 金太郎のふるさと

(2) お土産/特産品販売

■概要

- ・木津川市をはじめ、京都府下で生産されている特産品やお土産品を販売するコーナー

■整備方針

- ・照明や陳列棚の素材、商品の配列に配慮します。
- ・ここでしか購入できない地元の特産品を販売します。
- ・地域の経済的波及効果に繋げるため、「道の駅」内のカフェ等で提供される一部の食材や加工品を販売する売り場とします。

整備イメージ



地域の特産品を建物全体で表現したショップ
道の駅おおゆ

道の駅おおゆHP
<https://yunoeki-oyu.jp/>



特産品が置かれているショップ
道の駅たかねざわ 元気あつまむら

道の駅たかねざわ 元気あつまむらHP
<https://www.genkiupmura.com/>

(3) 飲食スペース・カフェ

■概要

- ・木津川市をはじめ、京都府下で生産されている農産物等やその加工品を直売所で購入して、軽食を楽しめるスペース
- ・持ち帰りができる手軽な食機能としてのカフェスペース

■整備方針

- ・木津川の景色を活かし、テラス席※を設け、眺望に配慮した明るい施設とします。
- ・利用者の購買意欲を向上させるため、農産物直売所やお土産販売コーナーで販売している食品を一部使用したメニューなどを検討します。

※Web アンケートにてテラス席を希望する意見があったため設置を検討します。

整備イメージ



地元の農産物を用いた料理
道の駅足柄 金太郎のふるさと



景色を活かしたカフェ
道の駅ましこ

DiscoverJapan HP
<https://discover-japan-web.com/article/87788>

(4) 多目的交流スペース

■概要

- ・地元住民のコミュニティ活動の場
- ・観光客向けの歴史・文化体験の場
- ・修学旅行等、団体での利用の場

■整備方針

- ・地域活動をはじめ、生涯学習、サークル活動、会議、企業研修など、多様なコミュニティの用途で利用することが出来る屋内空間を整備します。
- ・平常時においても誰でも気軽に立ち寄れる場所とするほか、イベント開催時や混雑時は観光情報発信施設やバス待合所、カフェ・雑貨スペースと一体的・複合的に活用することで施設の有効活用が図れる空間とします。

整備イメージ



多目的ルーム

道の駅おとふけなつぞらのふる里

道の駅おとふけなつぞらのふる里HP
<https://michinoeki-otofuke.jp/>

道の駅みそぎの郷きこない

道の駅みそぎの郷きこないHP
<https://kikonai.jp/>

(5) 加工施設

■概要

- ・ 地域の特産物をその場で加工し、「にぎわい拠点施設」で販売する商品を作る施設

■整備方針

- ・ 地域の特産物を用いた特産品を製造することができる施設を検討します。
- ・ 訪れた人が加工場内を見学できるような配置（ガラス張り等）を検討します。

整備イメージ



農産物加工場
道の駅みのりの郷東金

東金市HP
<http://www.city.togane.chiba.jp/0000005960.html>



こだわり手作り工房
道の駅愛彩ランド

JAいずみのHP
<https://www.ja-izumino.or.jp/farmstand/index.php>

(6) 公園・広場

■概要

- ・屋外に配置する、多目的に利用可能な芝生広場

■整備方針

- ・木津川の景観を活かし、ゆったりと過ごせる広場を整備します。
- ・平常時は「にぎわい拠点施設」利用者や地域の子どもたちが遊具で遊んだり、走り回ることが出来る空間とします。
- ・週末やGW、夏休みなどにイベントが実施できるよう、イベントスペースを設けます。
- ・非常時には災害スペースとして活用します。

整備イメージ



道の駅しょうなん

道の駅しょうなんHP
<https://www.michinoeki-shonan.jp/>



道の駅ちくら潮風大国

道の駅ちくら 潮風大国HP
<https://shiokaze-oukoku.jp/>

広場

7.4. 交通結節機能

(1) サイクルステーション

■概要

- ・自転車観光拠点としてサイクリストが休憩及びリフレッシュできる施設
- ・交通結節機能として自転車を気軽に利用できる施設

■整備方針

- ・木津川サイクリングロードのサイクリストが気軽に休憩でき、「にぎわい拠点施設」に立ち寄ることができるサイクルラックの設置を検討します。
- ・自転車のメンテナンスができる機能（自転車の空気入れや修理用具貸出など）の導入を検討します。
- ・自転車以外の方法で訪れた人も気軽に自転車を利用できるレンタサイクルの導入を検討します。
- ・カーサイクリングなどで訪れた人が使いやすい施設とします。
- ・景観に配慮し、建物と一体感のあるデザインとします。

整備イメージ



道の駅のロゴが入ったサイクリングラック
道の駅かさま

道の駅 かさまHP
<https://m-kasama.com/>



サイクルステーション
道の駅むつざわ つどいの郷

道の駅むつざわ つどいの郷HP
<https://mitsuzawa-swt.jp/>

(2) バス停

■概要

- ・地域の交通拠点となるコミュニティバスの停留所

■整備方針

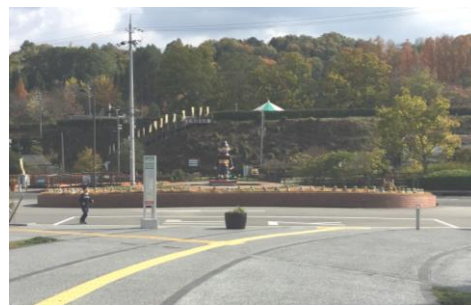
- ・今後のカーボンニュートラルや交通弱者への配慮からコミュニティバスの停留所の設置を検討します。
- ・道の駅施設と隣接するなど、誰もが利用しやすい配置とします。
- ・利用者の安全のため、動線の分離に配慮します。

整備イメージ



道の駅 センザキッチン

道の駅 センザキッチンHP
<https://nanavi.jp/senzakitchen/>



道の駅のバス停

道の駅奥河内くろまろの郷

7.5. 子ども応援機能（道の駅第3ステージ取組目標）

(1) ベビーコーナー（授乳室など）

■概要

- ・ベビーベッドや授乳室などの機能をもつ24時間利用可能なベビーコーナー

■整備方針

- ・オムツを交換できるベビーベッドや周囲の視線が気にならない授乳室を設置します。
- ・安心して利用でき、清潔感のある施設とします。
- ・ベビーベッド等は男性も利用できるような配置とします。
- ・おむつのばら売り販売ができる設備を配置します。

整備イメージ



ベビーコーナー
道の駅おとふけなつぞらのふる里

道の駅おとふけなつぞらのふる里HP
<https://michinoeki-otofuke.jp/>



授乳スペース
道の駅大谷海岸

道の駅大谷海岸HP
<https://mitinoekiiooya.jp/>

(2) 屋内遊戯施設

■概要

- ・雨の日でも子どもが室内で安心して遊べる施設

■整備方針

- ・子どもが安心して遊べるような遊具を設置します。
- ・遊具や椅子等は、子どもが口に含んでも問題のない素材を使用します。
- ・親が座って子どもを見守ることができるようなファニチャーを設置します。
- ・誰でも楽しむことができるインクルーシブデザインの遊具を配置します。

整備イメージ



こどもフロア
道の駅西条のん太の酒蔵

道の駅 西条のん太の酒蔵HP
<https://www.nonta-sakagura.com/>



キッズルーム
道の駅南えちぜん山海里

道の駅 南えちぜん山海里HP
<https://kineno-nanjo.com/>

(3) 屋外遊戯施設

■概要

- ・子どもが屋外で安心して遊ぶことができる施設

■整備方針

- ・子どもが安心して遊べるような遊具を設置します。
- ・親が座って子どもを見守ることができるような椅子等を設置します。
- ・誰でも楽しむことができるインクルーシブデザインの遊具を配置します。

整備イメージ



ふわふわドーム
道の駅 KOKO くらべ

道の駅 KOKO くらべHP
<https://www.koko-kurobe.jp/>



様々な遊具施設
道の駅南えちぜん山海里

道の駅 南えちぜん山海里HP
<https://kineno-nanjo.com/>

7.6. 防災拠点機能（道の駅第3ステージ取組目標）

(1) 防災スペース

■概要

- ・ 非常時の緊急避難場所となる規模の防災スペース

■整備方針

- ・ 平常時は芝生広場、非常時は防災スペースとして機能する空間とします。
- ・ 防災スペースは災害時の一時避難者の想定人数から適当な規模とします。

整備イメージ



ふわふわ広場 兼 防災スペース
道の駅パレットピアおおの

岐阜県 大野町役場HP
<https://www.town-ono.jp/0000001544.html>

(2) 備蓄倉庫

■概要

- ・ 非常時に必要となる資源を備蓄する倉庫

■整備方針

- ・ 備蓄倉庫の規模は災害時の一時避難者の想定人数から適当な規模とします。
- ・ 平常時には目立たない、周囲の空間と一体感のある意匠とします。

整備イメージ



防災倉庫

道の駅おとふけなつぞらのふる里

道の駅おとふけなつぞらのふる里HP
<https://michinoeki-otofuke.jp/>



道の駅ゆふいん

道の駅ゆふいんHP
<https://www.michinoeki-yufuin.com/>

(3) 貯水タンク

■概要

- ・ 非常時に飲料水を確保するための貯水タンク

■整備方針

- ・ 災害時の一時避難者の想定人数から適当な耐震貯水槽の規模を想定します。
- ・ 平常時には目立たない、周辺の景観に配慮した位置に設置します。

整備イメージ



貯水タンク

道の駅すさみ

国土交通省
「道の駅」の防災機能強化について

(4) 自家発電設備

■概要

- ・非常時に道の駅機能の電力を補うことができる自家発電設備

■整備方針

- ・非常時に道の駅機能の電力を3日間自家発電で対応できる能力を持つものとします。

整備イメージ



自家発電設備

道の駅すさみ

国土交通省
「道の駅」の防災機能強化について

(5) 防災トイレ

■概要

- ・非常時に設置して使える仮設の防災トイレ

■整備方針

- ・非常時に仮設として設置することを想定します。
- ・平常時は備蓄倉庫に収納します。

整備イメージ



災害用仮設トイレ

道の駅すさみ

国土交通省近畿地方整備局 Press Release
「道の駅「すさみ」に第二駐車場が完成」
(令和2年7月6日)

7.7. にぎわい向上機能

※にぎわい向上機能の施設は民間事業者からの意見によって内容や施設を決定するため、内容が変更となる可能性があります。

(1) 宿泊施設

■概要

- ・「道の駅」に併設された、来訪者の観光やサイクリストの拠点となるような宿泊施設

■整備方針

- ・来訪者がゆっくりと休むことができる空間が望ましいと考えられます。
- ・「道の駅」との連携を図るため、一体感のある意匠が望ましいと考えられます。

整備イメージ



フェアフィールド・バイ・マリオット 京都京丹波
道の駅味夢の里



フェアフィールド・バイ・マリオット 京都みなみやましろ
道の駅お茶の京都みなみやましろ村

フェアフィールド・バイ・マリオット HP
<https://fairfield-michinoeki-japan.com/ja>

(2) 入浴関連施設

■概要

- ・ 来訪者や休憩に立ち寄った人々が利用できる入浴関連施設

■整備方針

- ・ 温泉だけでなく、サイクリストが気軽に利用できるシャワー等の施設を検討します。
- ・ 気軽に入ることができる足湯も検討します。
- ・ 旅の疲れを癒すことができ、開放感があり清潔な施設が望ましいと考えられます。

整備イメージ



24 時間利用可能コインシャワー
道の駅西条のん太の酒蔵

道の駅 西条のん太の酒蔵HP
<https://www.nonta-sakagura.com/floorguide>



足湯
道の駅たるみず湯つ足り館

鹿児島県観光サイト かごしまの旅HP
<https://www.kagoshima-kankou.com/guide/13189>

7.8. その他機能

(1) 調整池

■概要

- ・ 非常時の周辺流量を調整し、災害の発生を防止するための池

■整備方針

- ・ 非常時の水害対策として調整池を設置します。
- ・ 調整池は地下ではなく地上に設置※し、親水空間となるようにします。

※敷地面積を有効に使うため、必要に応じて地下式の調整池も今後検討します。

整備イメージ



調整池を活かした親水空間

柏の葉アクアテラス

柏市役所HP

<https://www.city.kashiwa.lg.jp/hokubuseibi/aquaterrace.html>

(2) Web アンケートにて需要が高かったその他の機能・施設

Web アンケートにて需要が高かったその他の機能や施設を下記に示します。

今後の検討において導入を検討することが望ましいと考えられます。

- ・ ガソリンスタンド
- ・ ATM

8. 施設イメージ（ゾーニング図・イメージパース）

導入する施設を「道の駅ゾーン」、「にぎわい向上ゾーン」、「交流・防災ゾーン」「調整池ゾーン」の4つに分類し、以下の方針に従って配置します。

道の駅ゾーン：防災道の駅としての登録要件を満たす機能及び駐車場等を配置
（休憩機能、地域連携機能、交通結節機能、情報発信機能、子ども応援機能）

- ・道の駅機能は 24 時間利用できる必要があるため、道路から入りやすい整備予定地の南側に配置する
- ・道の駅の地域振興施設とにぎわい向上ゾーンの施設との連携が図りやすい配置とする
- ・国道 24 号及び国道 163 号から道の駅施設の視認性に考慮して配置する

にぎわい向上ゾーン：民間事業者の積極的な参画を促進し、道の駅ゾーンと一体的なにぎわいを創出するためのにぎわい向上機能を配置

- ・道の駅ゾーンの駐車場とにぎわい向上ゾーンの駐車場を一体的に利用することができる配置とする
- ・平常時には防災広場を用いたイベント等の開催が可能な配置とする

交流・防災ゾーン：屋外の機能として、防災拠点機能、公園・広場、屋外遊戯施設を配置

- ・地盤面の高さを活かし、見晴らしの良い位置に配置する
- ・まとまった規模の防災広場を確保する

調整池ゾーン：調整池を配置

- ・流末を考慮して、計画対象区域の現況地盤高の最も低い位置に配置する

8.施設イメージ（ゾーニング図・イメージパース）

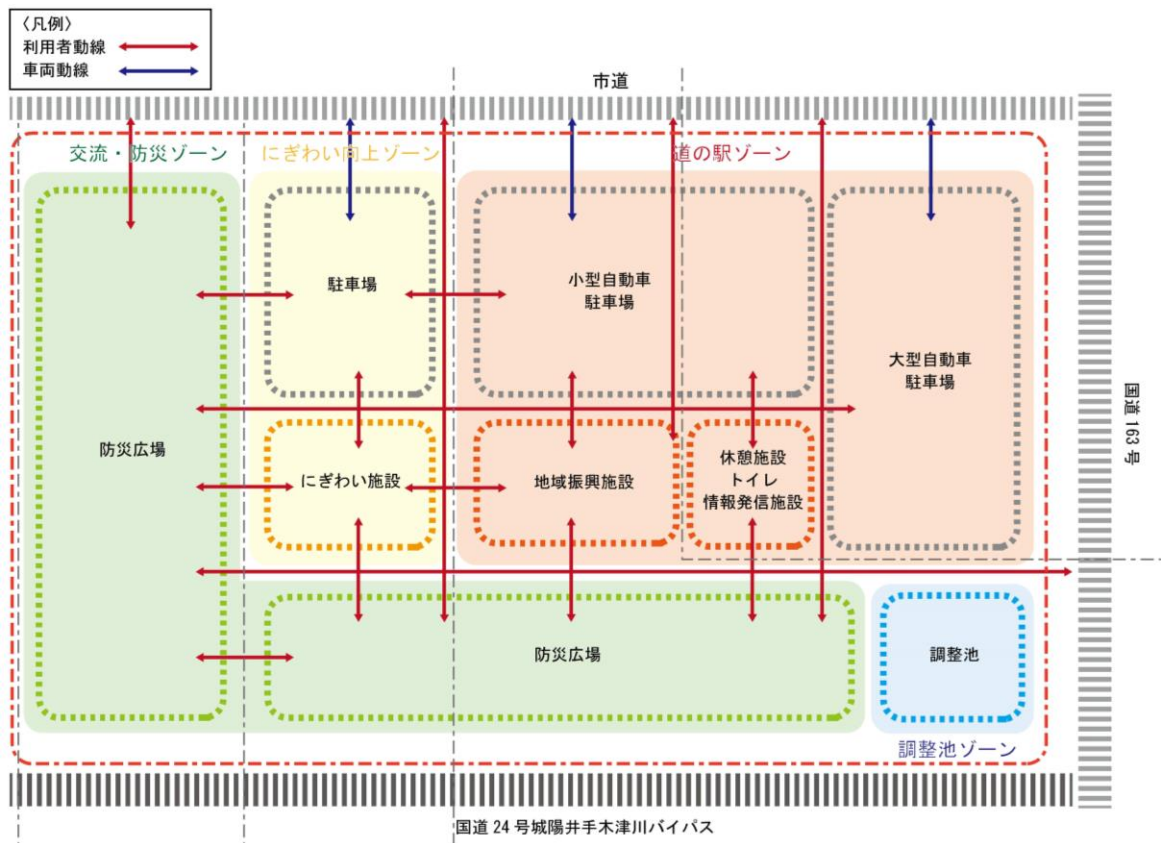


図 8-1 ゾーニング図



※イメージ図であり、実際の計画や完成図ではありません

図 8-2 鳥瞰パース



※イメージ図であり、実際の計画や完成図ではありません

図 8-3 アイレベルパース